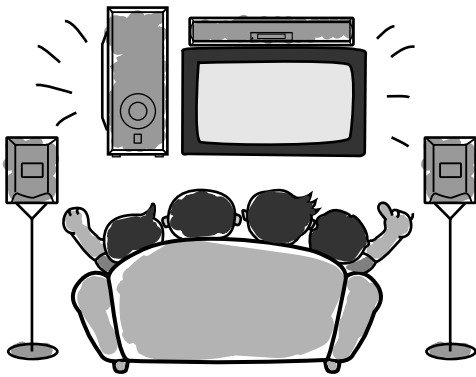
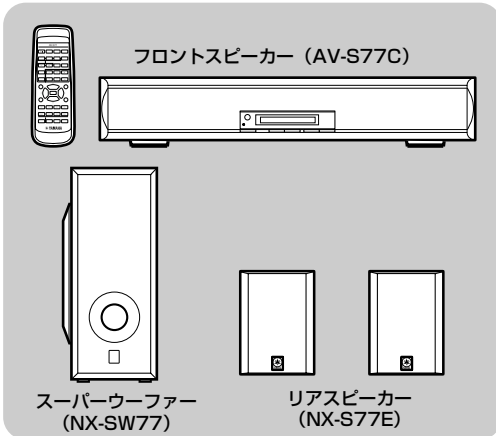


# AV-S77

## 取扱説明書



このたびは、ヤマハホームシアターサウンドシステムAV-S77をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

AV-S77の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みくださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

### 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などが記入されていませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

特長 .....	2
リモコンの準備 .....	3
安全上のご注意 .....	4
各部の名称 .....	10

スピーカーの置きかた	12	準備
取り付けかた	13	
フロントスピーカーを取り付ける	13	
リアスピーカーを取り付ける	15	
接続のしかた	17	
テレビ、ビデオ、DVDプレーヤーなどをつなぐ	18	
フロントスピーカー、スーパーウーファー、リアスピーカーをつなぐ	22	
電源コードの接続	25	
スピーカーのレベル調節	26	

操作のしかた	28	操作
便利な機能を使う	30	
音場プログラムについて	32	
音場プログラムの種類	32	
音場プログラムを楽しむ	33	
メニュー機能の設定	34	

テレビ、ビデオ、DVDをリモコンで操作する	37	リモコン
メーカーコードを設定する	37	
メーカーコード一覧表	38	
テレビを操作する	39	
ビデオデッキを操作する	40	
DVDを操作する	41	

用語解説	42	その他
故障かなと思ったら	44	
仕様	46	
索引	47	
ヤマハホットライン		
サービスネットワーク	48	

# 特長


AV-S77はテレビと組み合わせただけで映画館で味わうような迫力と臨場感をご家庭で体験できるホームシアターサウンドシステムです。

ヤマハ独自の技術を駆使した数々の最新音場プログラムは、映画、コンサートからスポーツ観戦まで、いろいろなソースに迫力と臨場感を与えます。また、ヘッドホンでお楽しみいただけるサイレントシアターも装備しています。

AV-S77はフロントスピーカー、リアスピーカー、スーパーウーファーでシステム構成されており、調和のとれた音色はもとより、重低音の迫力とサラウンド感をお楽しみいただけます。さらに、各スピーカーを簡単に接続していただけるよう、専用スピーカーケーブルによる画期的なワンタッチ接続を採用しています。

- ドルビーデジタル対応
- ドルビープロロジック対応
- DTS(デジタルシアターシステムズ)対応
- ヤマハシネマDSP(多彩な音場プログラム)
- サイレントシアター
- バーチャルサラウンド
- 専用スピーカーケーブル一本でフロントスピーカー、リアスピーカー、スーパーウーファーを簡単接続
- スリムでパワフルなスーパーウーファー
- BSデジタルチューナーなどを接続できる6チャンネル入力端子を装備
- いくつかの他メーカーのAV機器も操作可能な多機能リモコン付属



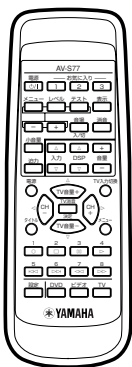
ドルビーラポラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、ドルビーデジタル、PRO LOGICおよびダブルD記号は、ドルビーラポラトリーズの商標です。



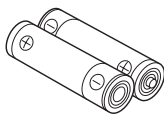
"DTS"および"DTSデジタルサラウンド"はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

## 付属品がすべてそろっているか、確認してください。

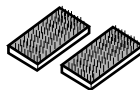
リモコン



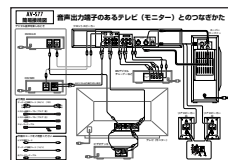
単3乾電池 2本



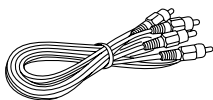
フロントスピーカー  
固定テープ(2セット)



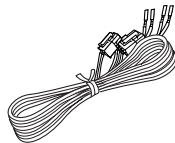
簡易接続図(1枚)



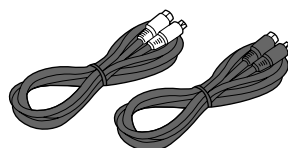
オーディオ接続コード  
(2ピン)(3m:1本)



スピーカーケーブル(1本)  
(リア:15m、フロント:3m)

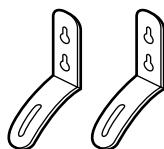


システム接続ケーブル  
(3m:2本)

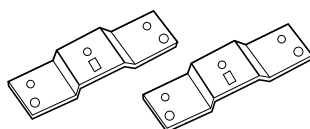


リアスピーカー取り付け部品

Aタイプ(2個)



Bタイプ(2個)



ネジ(2本)



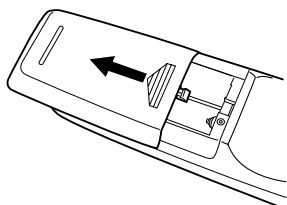
蝶ネジ(2本)



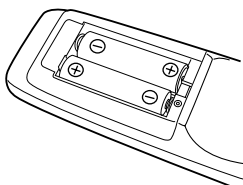
# リモコンの準備

## 乾電池を入れる

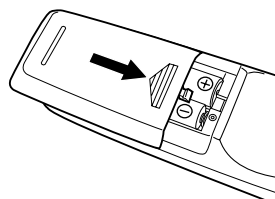
① 裏ぶたをはずす。



② 単3乾電池(2本)の⊕ ⊖を正しく入れる。



③ 裏ぶたを閉める。



## 乾電池のご注意

乾電池は誤った使いかたをすると、液もれが起きたり破裂することがありますので、次の点に特に注意してください。

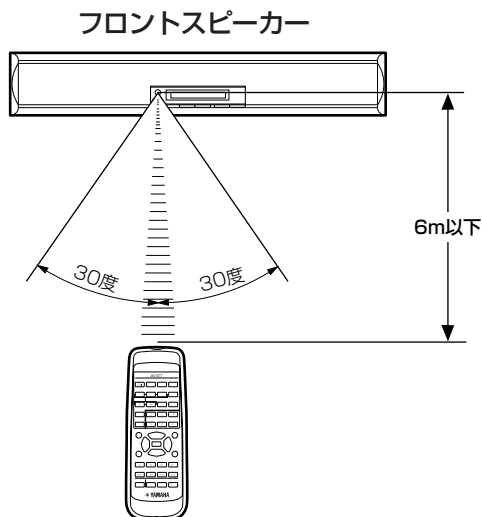
- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類のちがう乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能や電圧の異なるものがあります。
- 乾電池が使えなくなったり、リモコンを長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

- 充電式の乾電池はご使用になれません。
- 液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

### メーカーコードの保持について

乾電池は、使えなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身で設定されたメーカーコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消えてしまうことがありますのでご注意ください。また、このときリモコンのキーを誤って押すと、メーカーコードが消えてしまうことがありますのでご注意ください。

## リモコンの使用範囲



### 乾電池の交換時期は

リモコン操作できる距離が短くなったときは、乾電池を2本とも新しいものと交換してください。

### リモコン取扱上の注意

- フロントスピーカーのリモコン受光窓とリモコンの間に障害物があると、操作できないことがあります。
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、湿度の高いところには置かないでください。
- 受信部に直射日光や強い照明(インバーター蛍光灯など)が当たっているとリモコンが働きにくくなります。照明または本体の向きを変えてください。
- 他の機器のリモコンを同時に使うと、操作できないことがあります。

# 安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

## 絵表示の例



気をつけなければならない内容を表しています。  
たとえば△は「感電注意」を示しています。



してはいけない行為を表しています。  
たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。



必ずしなければならない行為を表しています。  
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を追う可能性が想定される内容を示しています。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

プラグを抜く

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかる場所

水滴の混入により火災や感電の原因となります。



接触禁止

雷がなりはじめたら電源プラグには触れない。

感電の原因となります。



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。  
修理・調整は販売店にご依頼ください。



禁止

放熱のため、スーパーウーファーを設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
  - じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
  - あおむけや横倒しには設置しない。
  - 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- (少なくとも本機の左右10cm、上10cm、背面10cm以上離して設置してください。)

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。



## 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を迫る可能性が想定される内容を示しています。



禁止

### 電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。



禁止

### 本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



禁止

### AC100V 50/60Hz以外の電源電圧では使用しない。

火災や感電の原因となります。



必ず行う

### 電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。



禁止

### 本機の通風孔・ポート(開口部)等にもものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。



禁止

### 本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- スーパーウーファーの振動によりものが落下してけがの原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。



必ず行う

### スピーカーコードは必ず壁等に固定する。

コードに足や手を引っかけるとスピーカーが転倒・落下し、故障したり、けがの原因となります。



必ず行う

### 取付け後は必ず安全性を確認する。

また、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。  
取付け箇所、取付け方法の不備による事故等の責任は、一切負いかねますのでご了承ください。

# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

**不安定な場所や振動する場所には設置しない。**

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。



禁止

**直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。**

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。



必ず行う

**電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。**

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。



プラグを抜く

**長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。**

火災や感電の原因となることがあります。



接触禁止

**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。**

感電の原因となることがあります。



禁止

**電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。**

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

**移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。**

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。



禁止

**長時間音が歪んだ状態で使用しない。**

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

**大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。**

聴力障害の原因となることがあります。

# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



必ず行う

**電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。**

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。**

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**電池と金属片をいっしょにポケットやバックなどに入れて携帯・保管しない。**

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。**

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。



禁止

**ほこりや湿気の多い場所に設置しない。**

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。



プラグを抜く

**手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。**

感電の原因となることがあります。



注意

**本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。**

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。



必ず行う

**電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。**

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。



禁止

**電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。**

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

# 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

**ポート(開口部)には手を入れない。**  
感電やけがの原因となることがあります。



禁止

**持ち運ぶときにはポート(開口部)に手をかけない。**  
ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

**ポート(開口部)のそばには割れやすいものなどを置かない。**  
ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。



注意

**環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。**  
正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。



禁止

**薬物厳禁**  
**ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。**  
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

**リアスピーカーを設置する際は、以下のことに注意する。**

- 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。
- 薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けしないでください。
- 壁や天井に取り付ける場合、必ず指定されたスピーカーブラケットを使用してください。  
正しい取り付け方をしないと、スピーカーが落下して、けがの原因となることがあります。



必ず行う

**フロントスピーカーを設置する際には、付属の固定テープを使用して確実に固定する。**  
固定テープを貼る場所のほこりやよごれを取り除いてください。また、固定テープの粘着面に触れないでください。粘着力の低下により、スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。



禁止

**フロントスピーカーを設置する際には、スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。**  
スピーカーが落ちて、けがの原因となることがあります。



必ず行う

**スピーカーとスピーカーブラケット・スピーカースタンドは必ず付属のネジを使用して固定する。**  
スピーカーが落ちたりすると、けがの原因となることがあります。



## 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



禁止

**本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。**

転倒したり破損したりして、けがの原因となることがあります。



プラグを抜く

**移動する場合は、フロントスピーカーの電源を切り、スーパーウーファーの電源コードをコンセントから抜き、接続コードを外してから行ってください。**

落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



注意

**接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、フロントスピーカーの電源を切り、スーパーウーファーの電源コードをコンセントから抜き、説明に従って接続してください。**



注意

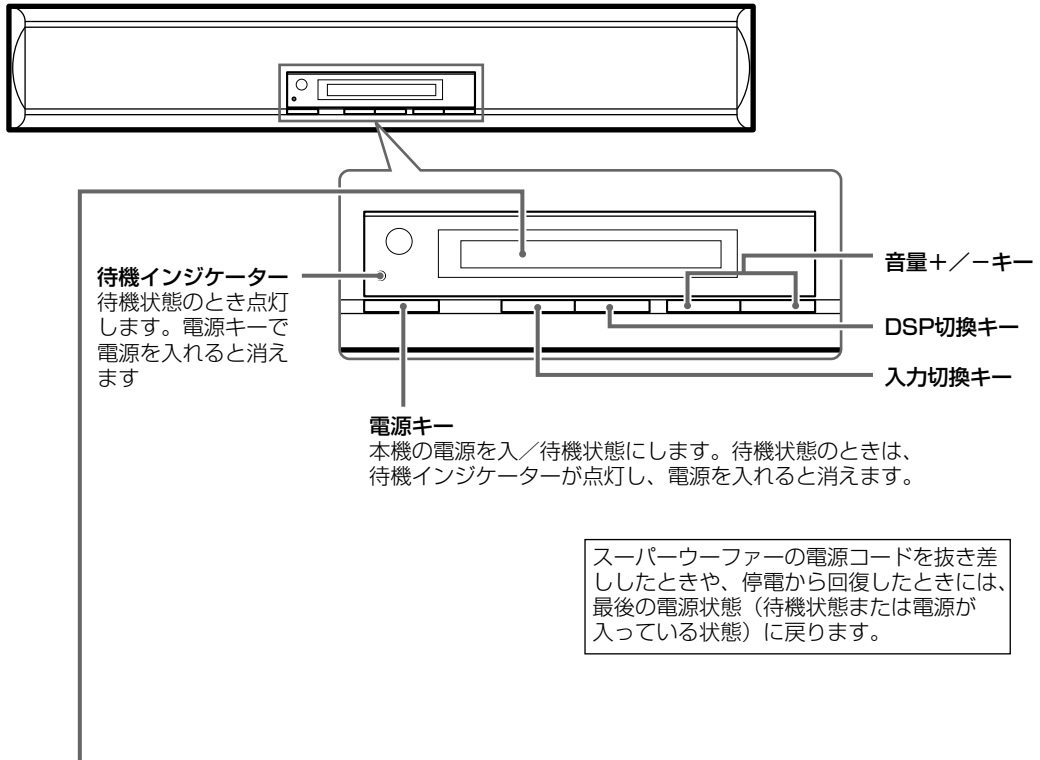
**年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。**

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災の原因となることがあります。

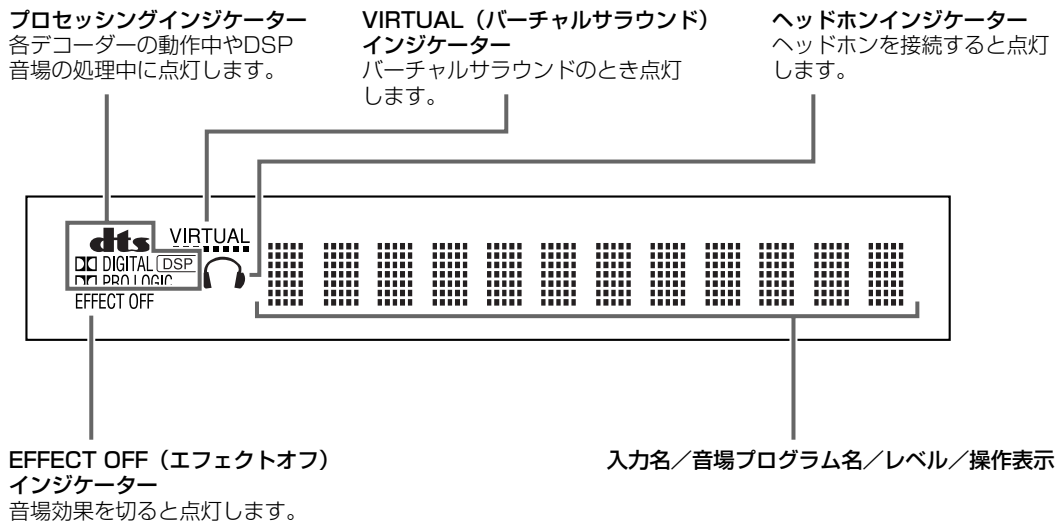
- 本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されており、従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。
- デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

# 各部の名称

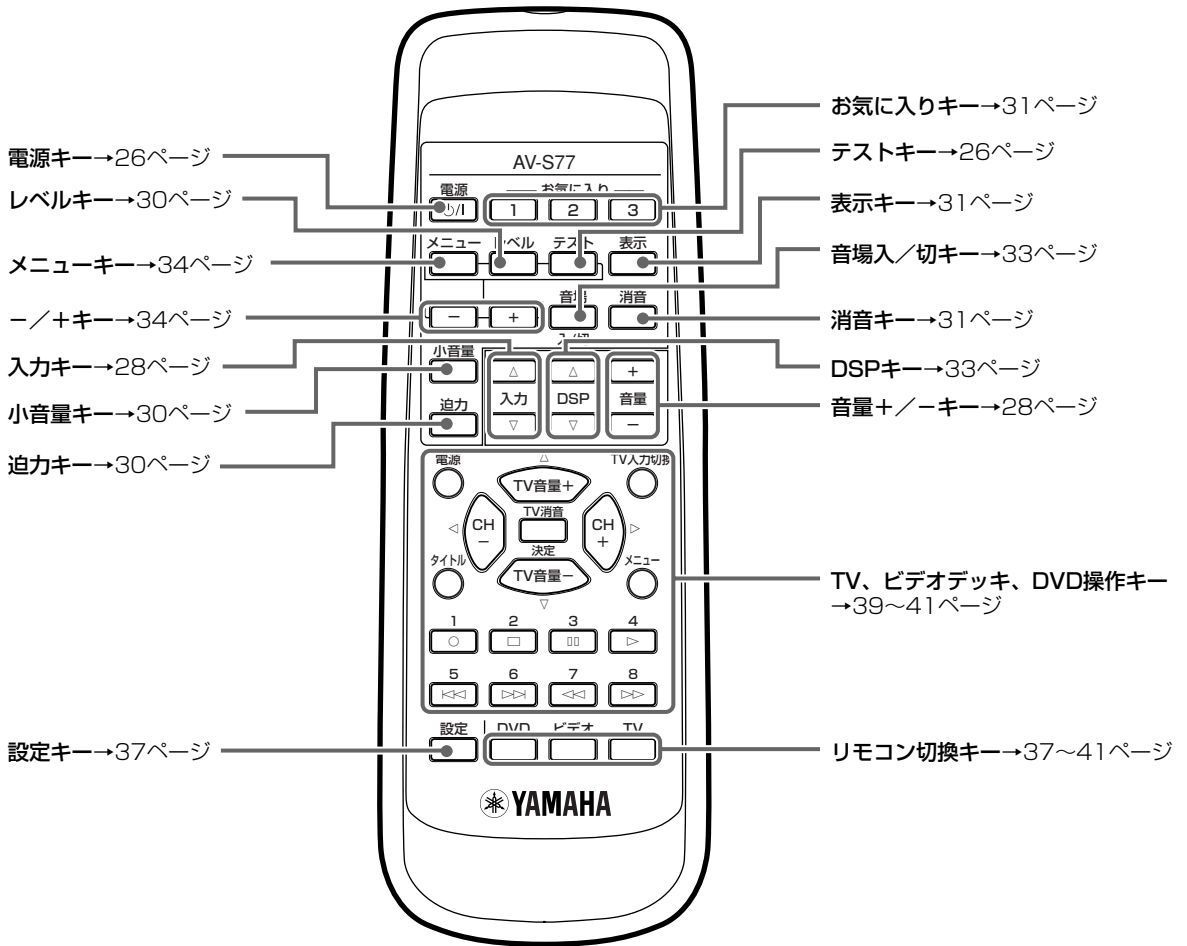
## フロントスピーカー前面



**表示窓** ● 表示の明るさを調節して暗くした場合でも、本機を操作するたびに表示が数秒間明るく点灯するので、操作がはっきり確認できます。

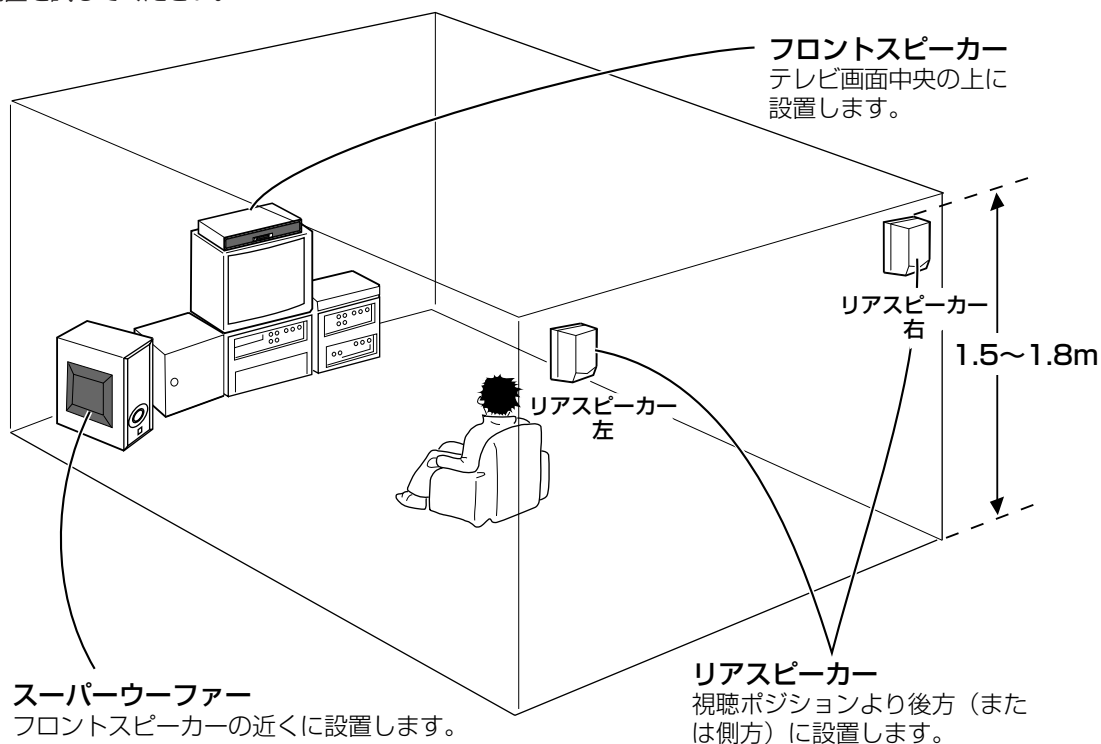


# リモコン



# スピーカーの置きかた

スピーカーは下図のような位置関係が理想ですが、部屋の環境に合わせて最も効果が上がるように各スピーカーの配置を試してください。

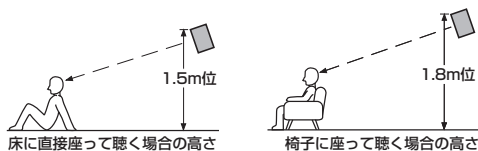


## フロントスピーカー

フロントスピーカーはテレビ画面とスピーカーの前縁をそろえ、テレビの上に取り付けます。テレビの上に設置できないときは、テレビの下のラック内などできるだけテレビ画面の近くに設置してください。

## リアスピーカー

リアスピーカーは、お部屋の状況に合わせて棚に置いたり、壁に掛けることもできます。スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。



## スーパーウーファー

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて置きます。また、左側面にスピーカーが装備されているので、壁やカーテンなどから10cm以上離して設置してください。低音の聴こえかたは、スーパーウーファーを置く位置と聴く位置の両方に影響を受けますので、設置場所を変えてお試しください。

## ！ ご注意 ！

- 本機のスピーカーシステムは防磁タイプですが、テレビの近くで使用したときにテレビ画面に色むらがり起る場合は、本機とテレビの位置を調整してください。消磁機能のあるテレビをご使用の場合は、次のように対処してください。
  1. テレビの電源を切る。
  2. しばらくたってから、もう一度テレビの電源を入れる。
- 設置場所について
  - ー 通気性の良い場所に置いてください。
  - ー スーパーウーファー前面のポート（開口部）や左側面のスピーカーからは低音が出るので、その近くに物を置かないでください。
- 持ち運ぶとき、スーパーウーファー左側面に手をかけないようにしてください。スピーカーやサランネットを破損することがあります。

# 取り付けかた

## フロントスピーカーを取り付ける

フロントスピーカーの落下を防ぐため、テレビなどの上に置くときは、固定テープ(付属)でフロントスピーカーを固定します。また、設置する場所に段差があるときは、フロントスピーカー背面の「高さ調節金具」を使います。

### 固定テープの使いかた

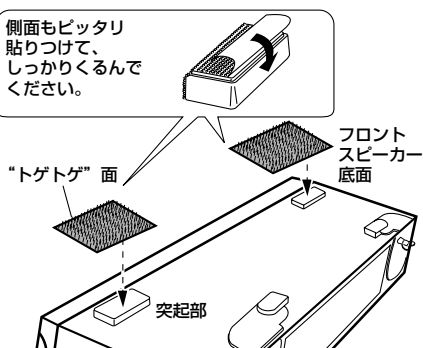
#### 設置前のご注意

- テープをはがした後、接着面には触れないでください。接着強度が弱くなります。
- 固定テープを貼る部分はきれいに拭いておいてください。ほこりや油、水などが付着していると、テープの接着強度が弱くなり、スピーカーが落下する恐れがあります。

1

“トゲトゲ”面の固定テープのシールをはがし、フロントスピーカー底面の突起部にかぶせて貼る

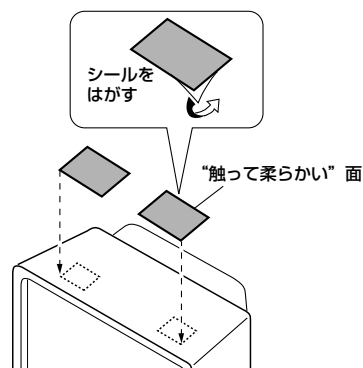
側面もピッタリ貼りつけて、しっかりくるんでください。



3

“触って柔らかい”面の固定テープのシールをはがし、設置位置に貼る

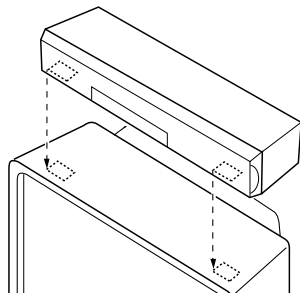
シールをはがす



2

テレビの上など設置する場所にフロントスピーカーを置き、“触って柔らかい”面の固定テープを貼る位置(設置位置)を決める

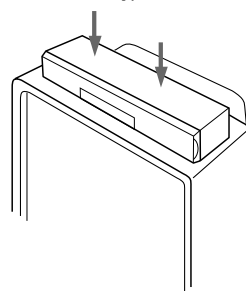
フロントスピーカーに貼った固定テープとテレビ上面に貼る固定テープがずれないように位置を決める。



4

固定テープの両面を合わせ、フロントスピーカーの上からしっかりと押さえる

上から押さえる。



#### ！ご注意！

フロントスピーカーを一度固定したあとで固定テープをはがすと、テレビなどの設置面の塗装がはがれることがあります。設置位置は十分確認したうえで固定テープを貼ってください。

## 取り付けかた

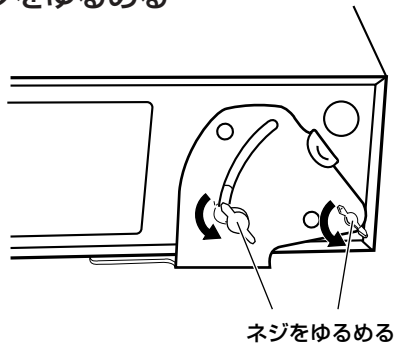
### 高さ調節金具の使いかた

#### 設置前のご注意

- テレビの上などで水平な面が少なく、斜めになっている場所には設置しないでください。
- 高さ調節金具を使ってもフロントスピーカーが水平にならない場所には設置しないでください。

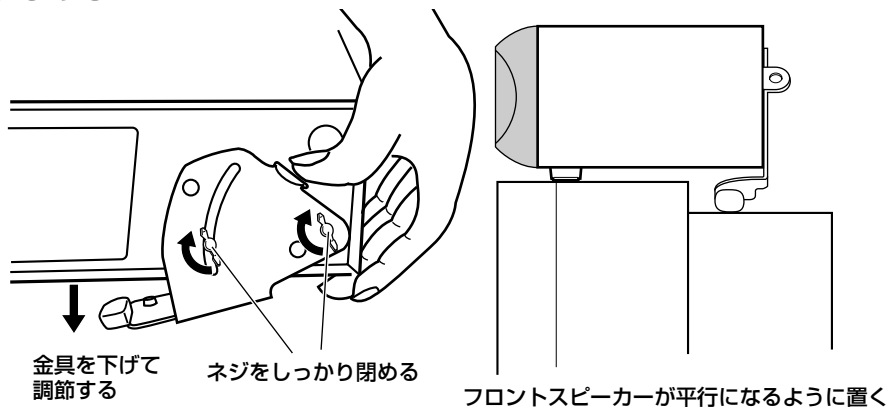
1

#### 調節金具のネジをゆるめる

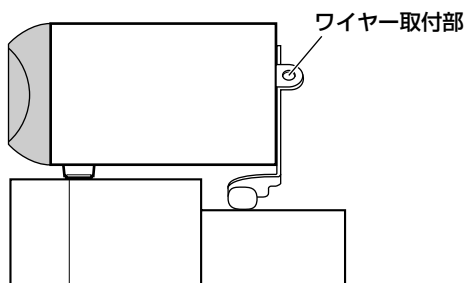


2

#### フロントスピーカーが水平になるように金具を下げ調節し、ネジをしっかりしめる



### 落下防止をさらに強固にするには



調節金具についているワイヤー取付け部に十分強度のあるワイヤーを通し、壁にしっかり固定してください。固定テープに加えて二重の落下防止となります。フロントスピーカーの落下による思わぬ事故を防ぐことができます。

- ワイヤーは別途ご用意ください。

#### ！ご注意！

本機の上には絶対に物を置かないでください。

## リアスピーカーを取り付ける

### スピーカー取り付け金具の使いかた

付属の金具（Aタイプ）を使用してリアスピーカーを壁に取り付けるときは

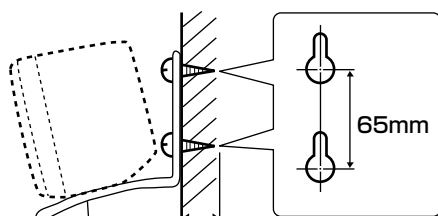
リアスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、付属の金具（Aタイプ）を使います。

- リアスピーカーを壁に取り付けて使用する場合は、前もってスピーカーケーブルを接続してから取り付けてください。取り付け後はスピーカーケーブルが接続しにくくなります。スピーカーケーブルの接続については24ページをご覧ください。

1

リアスピーカーを掛ける場所に2本の木ネジ(市販品：直径4mm程度)を取り付け、木ネジに金具を取り付ける

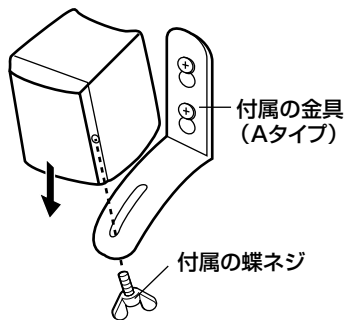
- 木ネジが、金具の狭い部分に確実に入っていることを確認してください。



付属の金具 (Aタイプ) 20mm以上

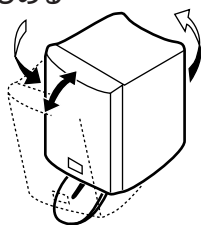
2

付属の蝶ネジでスピーカーを金具に付ける



3

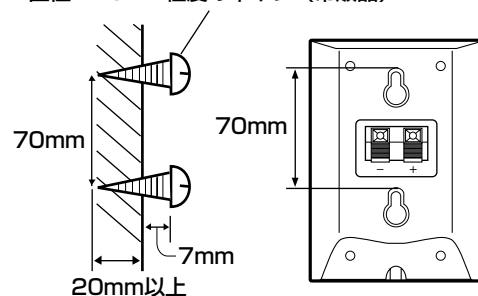
スピーカーの角度を調節したあと、蝶ネジをしめる



スピーカーを直接壁に取り付けるときは

Aタイプの金具を使わずに、壁に2本の木ネジを取り付け、スピーカー背面の穴を利用して壁に掛けることもできます。

直径4～5mm程度の木ネジ（市販品）

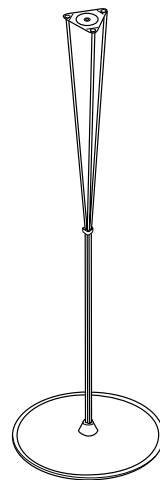


❗ ご注意 ❗

取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。

別売ヤマハスピーカースタンドSPS-AV1

リアスピーカーにSPS-AV1を取り付けると、フロアスタンドスピーカーとして使えます。



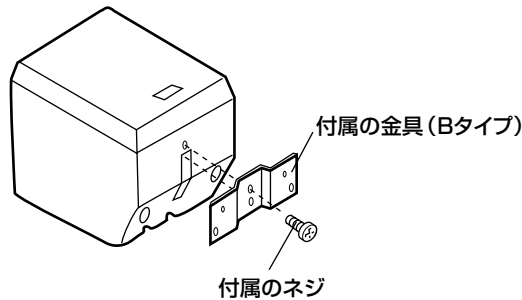
## 取り付けかた

天井吊り用／壁掛け用スピーカーブラケット（ヤマハSPM-5など）を使用するときは

### 1

付属のネジで、スピーカー底部に付属の金具(Bタイプ)を取り付ける

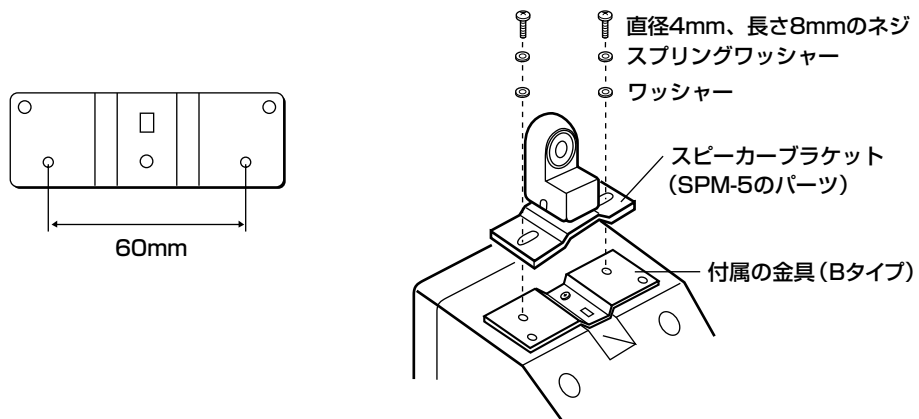
- 金具の凸部分がスピーカー底部の溝に入るようにします。



### 2

付属の金具の穴(60mm間隔)を使い、スピーカーブラケットをネジで固定する

- 直径4mm、長さ8mmのネジとスプリングワッシャーおよびワッシャーをご用意ください。



取り付けの際は、使用するスピーカースタンドやスピーカーブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。

### ！ご注意！

(重要なお知らせです。必ずお読みください。)

- スピーカーは1台約0.8kgの重量があります。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニヤ板など、はがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下すると、けがの原因になります。
- 金具を釘や両面テープなどで取り付けしないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下すると、けがの原因になります。
- スピーカーコードをスピーカーと金具の間に挟まないように注意してください。スピーカーコードはスピーカー背面の溝を通してください。
- スピーカーコードを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、コードは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。  
取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。



# 接続のしかた

すべての接続を完了してから、スーパーウーファースの電源コードをつないでください。

## 正しい接続のために

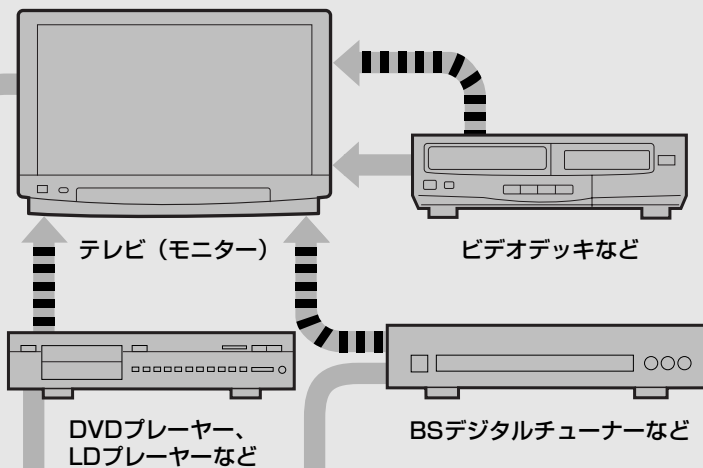
- 接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
- 音声信号の左/L端子(白)には接続コードの白のプラグを、右/R端子(赤)には赤のプラグを接続します。
- プラグは、しっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと音が出なかったり雑音の原因となります。
- 接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度確かめください。

18~21ページ

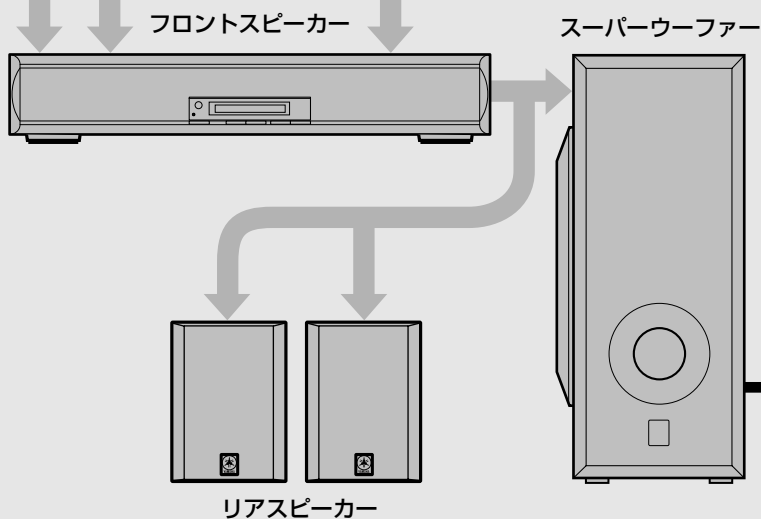
信号の流れ

映像： 

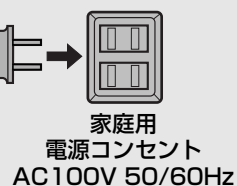
音声： 



22~24ページ



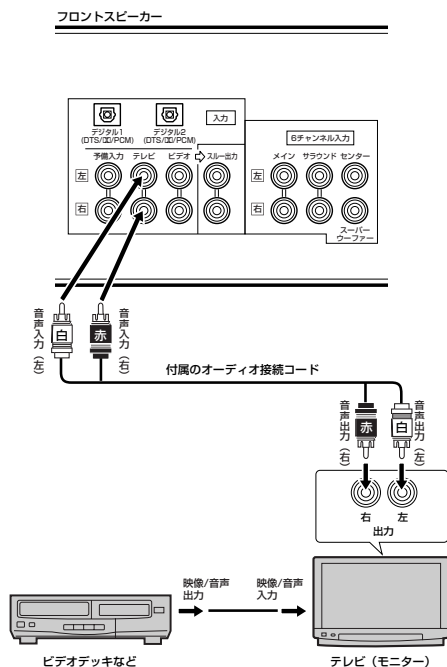
25ページ



## 接続のしかた

## テレビ、ビデオ、DVDプレーヤーなどをつなぐ

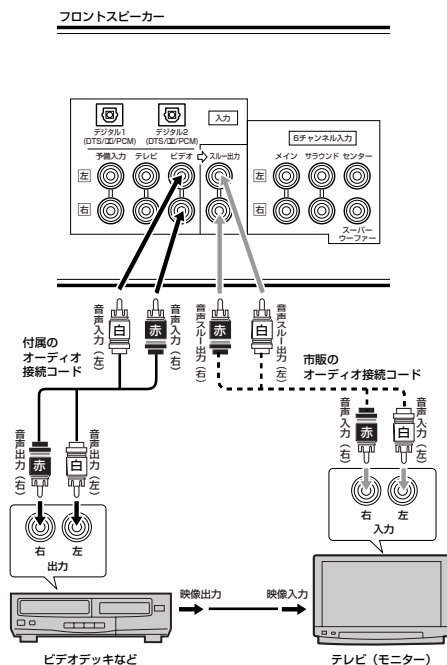
## 音声出力端子のあるテレビ（モニター）とのつなぎかた



付属のオーディオ接続コードを使って、テレビ（モニター）の音声出力端子とフロントスピーカーのテレビ端子を接続します。

- テレビからの音声はAV-S77から聞こえます。（テレビのスピーカーからも聞こえますが、本機の効果を十分に楽しむためにはテレビの音量をしぼることをおすすめします。）

## 音声出力端子のないテレビ（モニター）とのつなぎかた



ビデオ端子だけを接続する方法と、ビデオ端子に加えてスルー出力端子を接続する方法があります。付属のオーディオ接続コードを使って、ビデオデッキの音声出力端子とフロントスピーカーのビデオ端子を接続します。

ビデオ端子に加えてスルー出力端子を接続する場合は、市販のオーディオ接続コードを使って、フロントスピーカーのスルー出力端子とテレビ（モニター）の音声入力端子を接続します。

## ビデオ端子だけを接続すると：

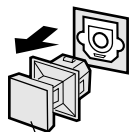
ビデオデッキの音声は、AV-S77からのみ聞こえます。

## ビデオ端子に加えてスルー出力端子を接続すると：

フロントスピーカーの電源を待機状態にしても、音声はテレビのスピーカーから聞こえます。

## DVDプレーヤーなどのデジタル音声を楽しむためのつなぎかた

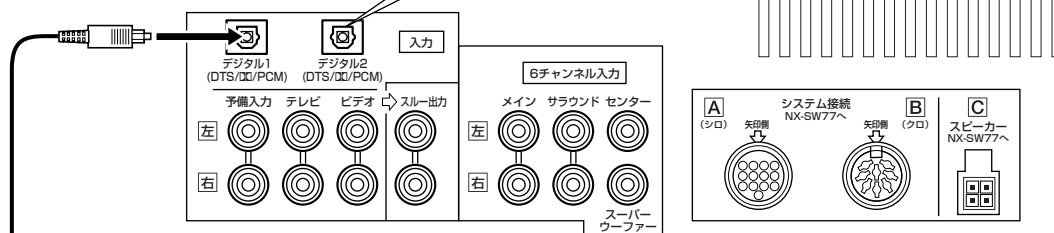
## 防塵キャップについて



防塵キャップ

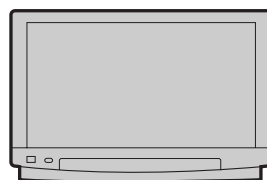
光ファイバーケーブルを接続する場合は、デジタル1または2端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。（ほこりなどの侵入を防ぎます。）

## フロントスピーカー



市販の  
光ファイバー  
ケーブル

## テレビ (モニター)

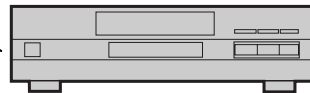


映像入力

映像出力

光デジタル

出力



DVDプレーヤー、LDプレーヤーなど

DVDプレーヤー、LDプレーヤーなどの光デジタル出力端子とフロントスピーカーのデジタル1または2入力端子を市販の光ファイバーケーブルを使って接続すると、デジタル音声をお楽しみいただけます。

- DVDプレーヤー、LDプレーヤーなどの音声はAV-S77から聞こえ、テレビのスピーカーからは聞こえません。

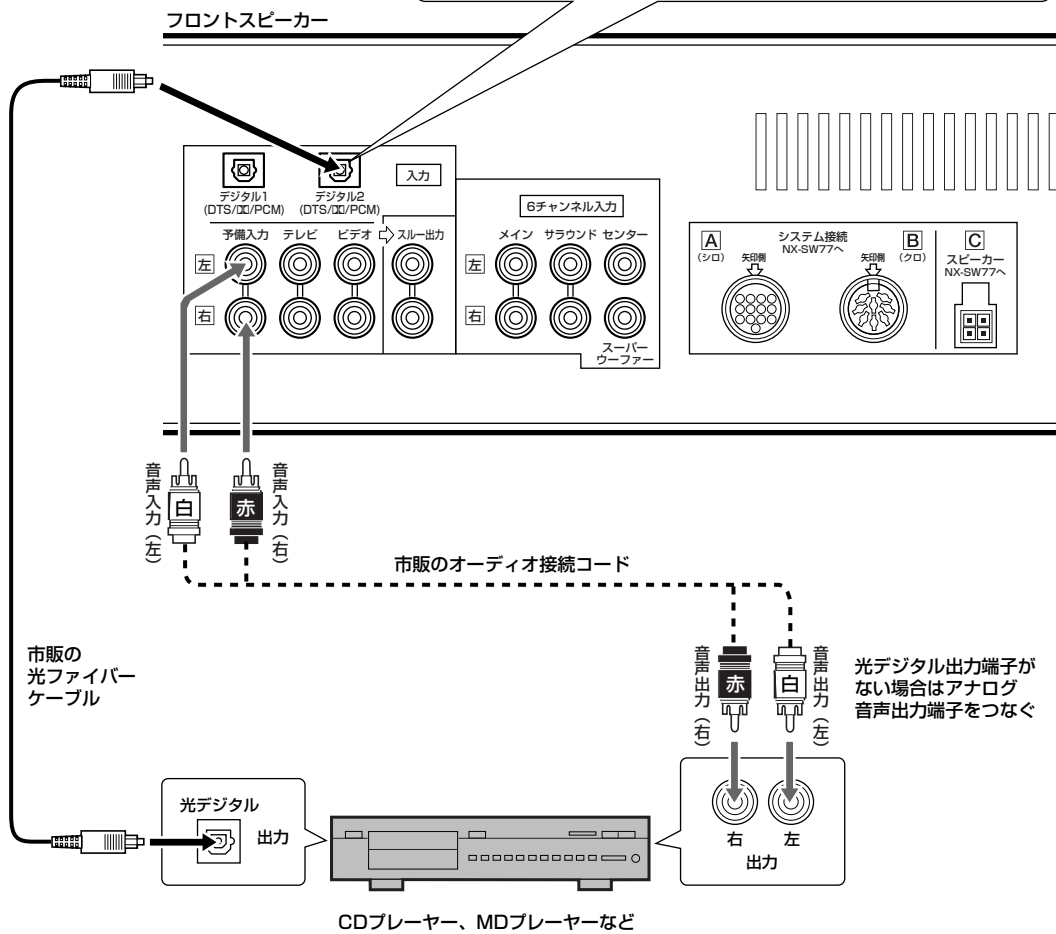
# 接続のしかた

## CDプレーヤー、MDプレーヤーなどのつなぎかた

### 防塵キャップについて



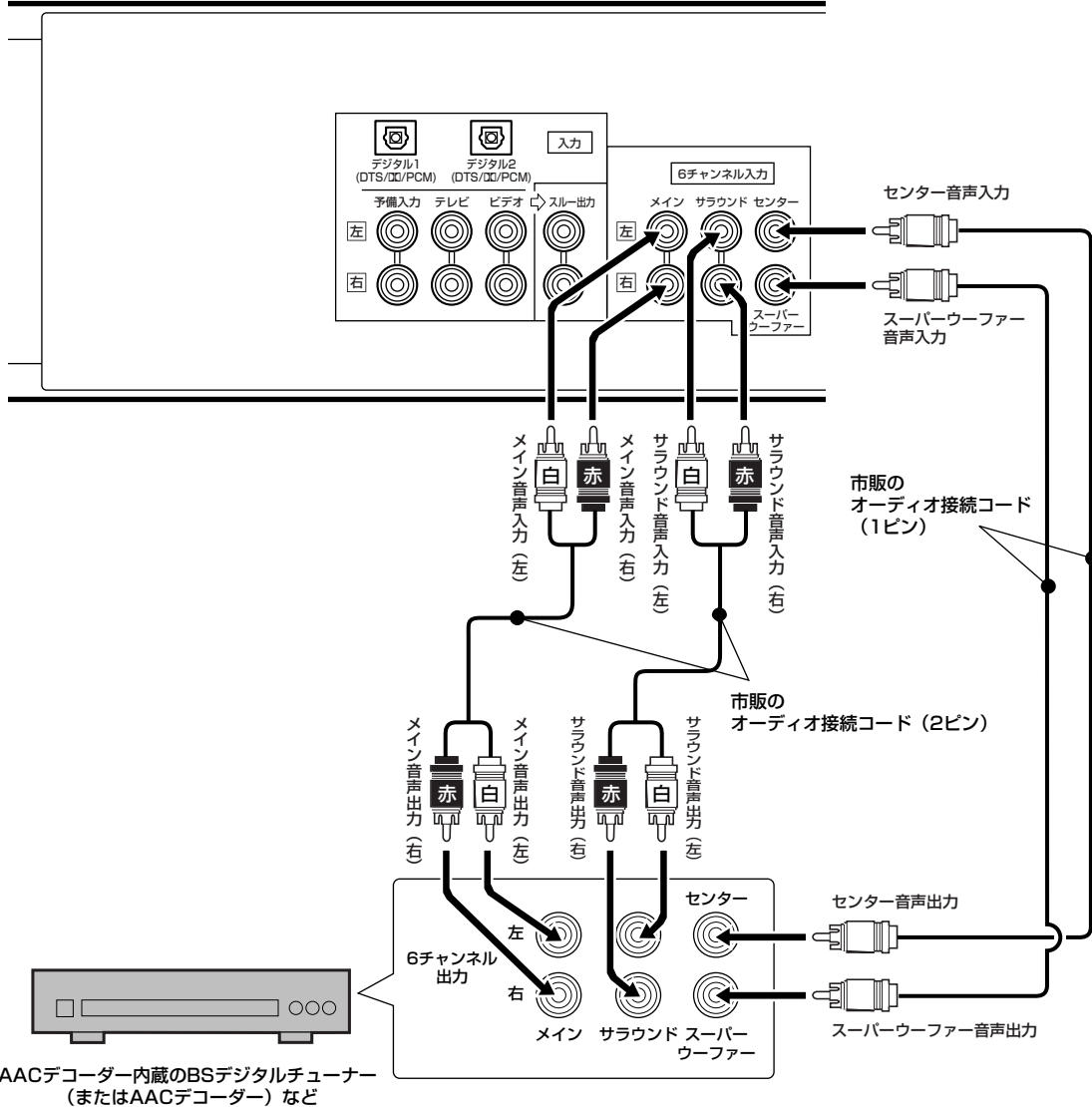
光ファイバーケーブルを接続する場合は、デジタル1または2端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。（ほこりなどの侵入を防ぎます。）



CDプレーヤー、MDプレーヤーなどの光デジタル出力端子とフロントスピーカーのデジタル1または2入力端子を市販の光ファイバーケーブルを使って接続します。  
 光デジタル出力端子がない場合は、CDプレーヤー、MDプレーヤーのアナログ音声出力端子とフロントスピーカーの予備入力端子を市販のオーディオ接続コード(2ピン)を使って接続します。

## BSデジタル音声など、6チャンネル音声を楽しむためのつなぎかた

フロントスピーカー



AACデコーダー内蔵のBSデジタルチューナー(またはAACデコーダー)などにより、6チャンネルアナログ音声に変換されたデジタル音声をお楽しみいただけます。

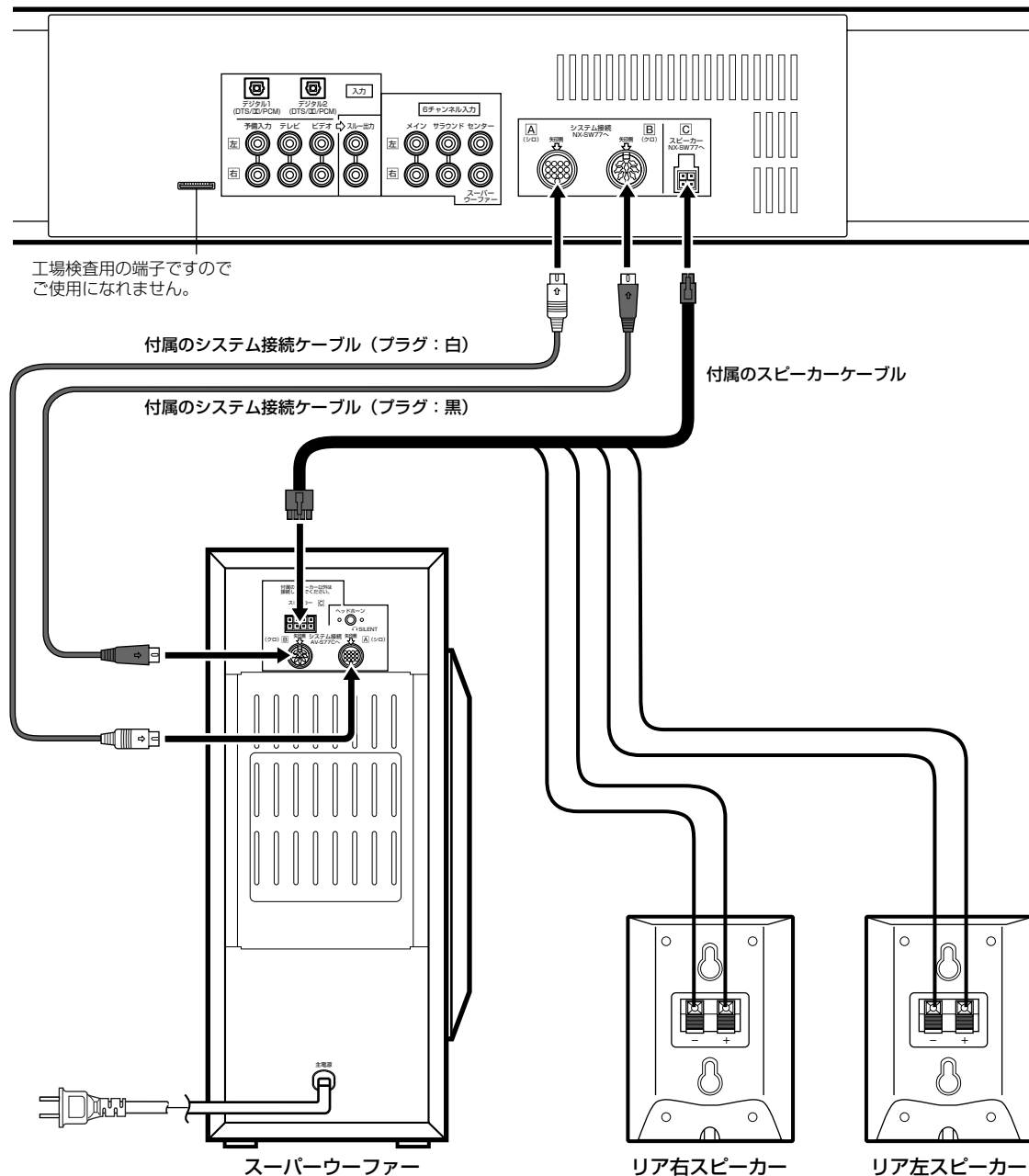
1. BSデジタルチューナーなどのメイン出力端子とフロントスピーカーの6チャンネル入力メイン端子を市販のオーディオ接続コード(2ピン)を使って接続します。
2. BSデジタルチューナーなどのサラウンド出力端子とフロントスピーカーの6チャンネル入力サラウンド端子を市販のオーディオ接続コード(2ピン)を使って接続します。
3. BSデジタルチューナーなどのセンター出力端子とフロントスピーカーの6チャンネル入力センター端子を市販のオーディオ接続コード(1ピン)を使って接続します。
4. BSデジタルチューナーなどのスーパーウーファー出力端子とフロントスピーカーの6チャンネル入力スーパーウーファー端子を市販のオーディオ接続コード(1ピン)を使って接続します。

## 接続のしかた

## フロントスピーカー、スーパーウーファー、リアスピーカーをつなぐ

## 接続の全体図

フロントスピーカー

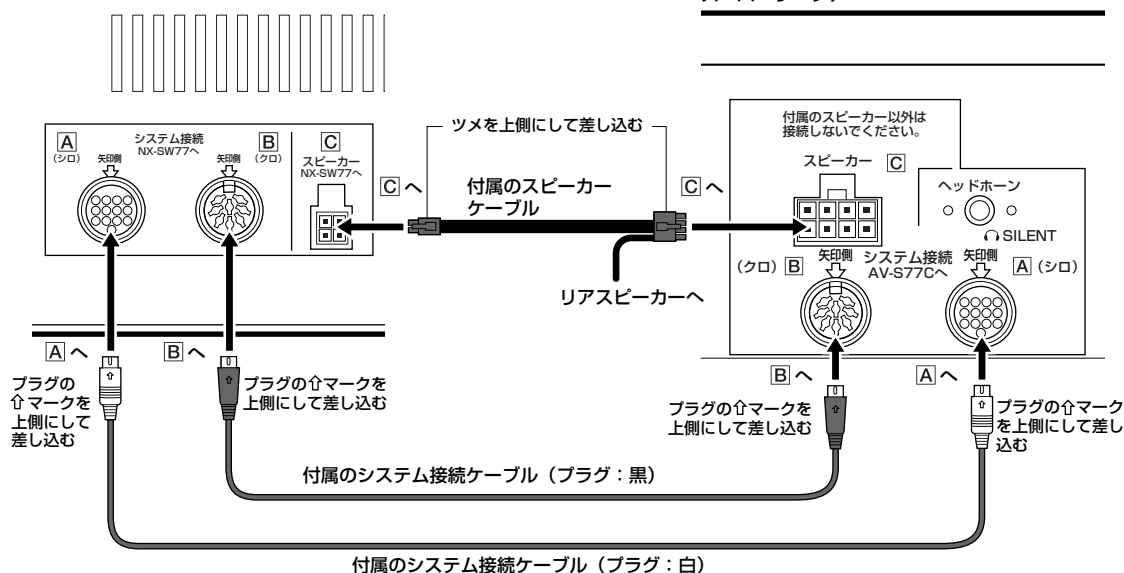


フロントスピーカーとスーパーウーファーを付属のシステム接続ケーブル2本とスピーカーケーブルを使ってつなぎます。次に、スピーカーケーブルから枝分かれしているリアスピーカーケーブルをリアスピーカーにつなぎます。

## フロントスピーカーとスーパーウーファースのつなぎかた

### フロントスピーカー

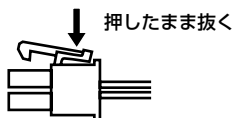
### スーパーウーファー



システム接続ケーブルのプラグとスピーカーケーブルのコネクターは、正しい向きを確認してから差し込んでください。

1. フロントスピーカーとスーパーウーファースのシステム接続端子[A]を付属のシステム接続ケーブル(プラグ：白)を使って接続します。
2. フロントスピーカーとスーパーウーファースのシステム接続端子[B]を付属のシステム接続ケーブル(プラグ：黒)を使って接続します。
3. フロントスピーカーとスーパーウーファースのスピーカー端子[C]を付属のスピーカーケーブルを使って接続します。

**スピーカーケーブルのコネクターの抜きかた**  
コネクターのツメを押したまま抜きます。



### ❗ご注意❗

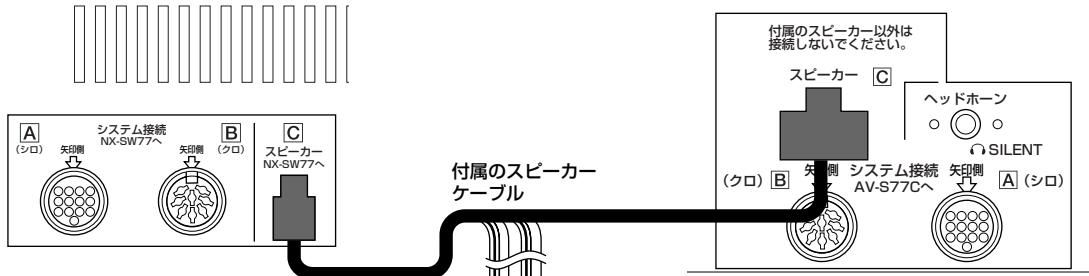
- プラグやコネクターを無理に差し込まないでください。プラグやコネクター、端子を破損する原因となります。
- システム接続ケーブルやスピーカーケーブルを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して音が出なくなったり、火災や感電の原因となります。特に、ラックやキャスターで踏みつけたりしないようご注意ください。
- システム接続ケーブルの抜き差しは、フロントスピーカーの電源を待機状態にした後、スーパーウーファースの電源コードを抜いてから行ってください。

## 接続のしかた

### リアスピーカーのつなぎかた

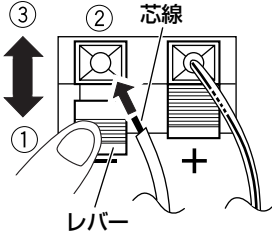
フロントスピーカー

スーパーウーファー

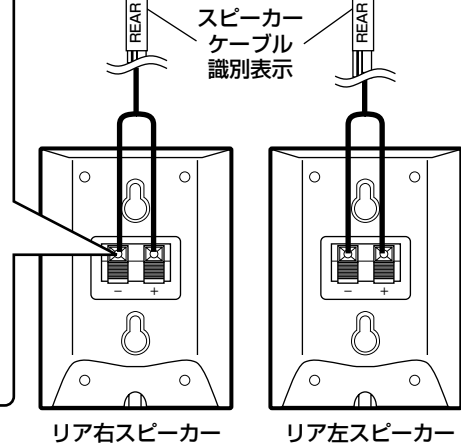


スピーカーケーブル先端の絶縁部分（ビニール）を引き抜き、先をよじっておきます。（ビニールをよじりながら引き抜くと芯線がバラバラになりません。）

- ① レバーを下に押しながら
- ② 穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込み
- ③ レバーを戻す。（指を離すとレバーが戻ります。）



- ライン入りのケーブルを右側の+端子（赤）に接続し、もう一方のコードを左側の-端子（黒）に接続します。
- 接続が終わったらスピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

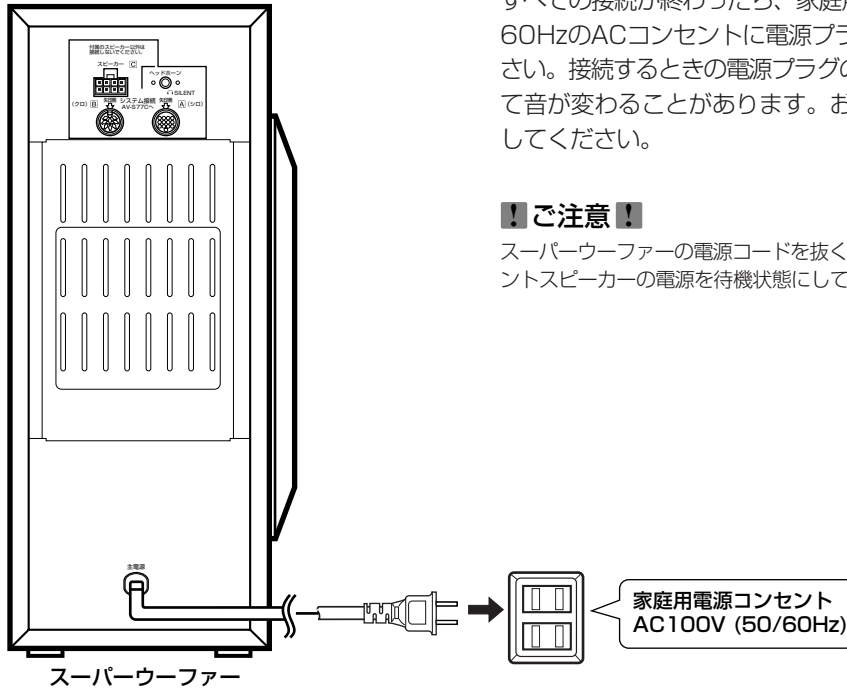


#### ！ご注意！

- スピーカーケーブルのプラス(+)とマイナス(-)を間違えないように接続してください。
- スピーカーケーブルはプラス(+)とマイナス(-)がショート(接触)しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。
- スピーカーケーブルは芯線部分だけを端子の穴に接続します。ケーブルの絶縁部分(ビニール)まで差し込むと音は出ません。
- スピーカーケーブルは手や足に引っかからないよう、固定してください。



## 電源コードの接続



すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源プラグを接続してください。接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

**！ご注意！**

スーパーウーファースの電源コードを抜くときは、前もってフロントスピーカーの電源を待機状態にしてください。

**メモリーバックアップについて**

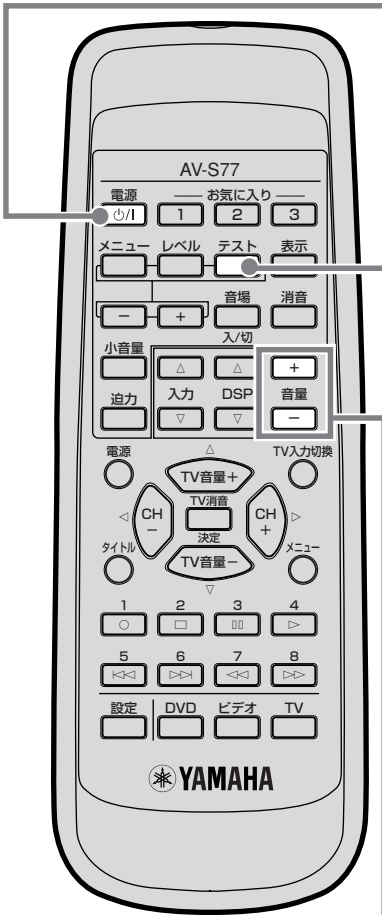
本機の電源を切っても、次の設定はメモリー(記憶)されています。

- 音量
- 入力
- 入力につけた名前
- ディマー
- オートパワーオフ
- お気に入り
- 日本語/英語表示
- 迫力モード
- 小音量モード
- 通常が表示
- 入力ごとに選択されている音場プログラム
- 音場入/切
- チャンネルレベル(左右メイン、センター、左右リア、スーパーウーファー)  
(サイレントシアターまたはバーチャルサラウンドを選んだときのリアレベルもメモリーされます。)
- ディレイタイム
- 電源供給がカットされる直前の電源状態(待機状態または電源が入っている状態)

# スピーカーのレベル調節

ドルビーデジタル、ドルビーサラウンドまたはdtsのソースを最適な音場プログラムで再生するとき、これらの音場効果を十分に発揮させるには各チャンネルの音量(出力レベル)が同じになるように調節する必要があります。また、他の音場プログラムで再生するときも、それぞれの音場の持ち味を引き出すことができます。センターチャンネル(フロントスピーカーから出力)およびリアチャンネル(リアスピーカーから出力)の音量が左右メインチャンネル(フロントスピーカーから出力)と同じになるように調節します。

再生の前に次の手順にしたがって、スピーカーレベルの調節を行ってください。



## 1 電源キーを押して電源を入れる

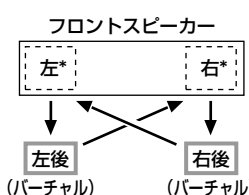
電源  
⏻/⏪

待機インジケーターが消えます。

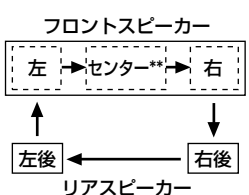
## 2 テストキーを押す

テストトーンが次の順序で聞こえます。

A: バーチャルサラウンドまたはサイレントシアターを選んでいるとき



B: バーチャルサラウンドまたはサイレントシアター以外を選んでいるとき



\* サイレントシアターでは、左右メインチャンネルや左右リアバーチャルチャンネルの音はヘッドホンから聞こえます。  
\*\* フロントスピーカーにはセンタースピーカーは内蔵されていませんが、センターチャンネルの音は左右メインチャンネルから同時に出力されます。

## 3 音量 + または - キーでテストトーンの音量を調節する (通常お聞きになる音量にします)

+  
音量  
-

音量 + キーを押すと音が大きくなり、- キーを押すと小さくなります。

### メモ



6チャンネル入力端子に接続した機器の音声を、本機で調節したチャンネルレベルで聴くことはできません。接続した機器にレベル調節機能がある場合は、必要に応じて調節してください。

## スピーカーのレベル調節

## 4

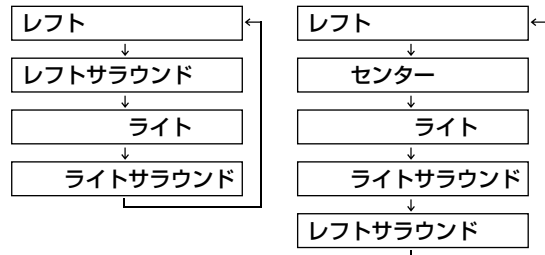
## テストトーンを聞きながら各チャンネルのレベルを調節する

- A：左右リアバーチャルチャンネルの音量が左右メインチャンネルと同じになるように調節します。  
 B：センターチャンネルおよびリアチャンネルの音量が左右メインチャンネルと同じになるように調節します。

左右メインチャンネルを調節する	左または右メインチャンネルからテストトーンが出ているとき	大きくするには 
センターチャンネルを調節する	センターチャンネルからテストトーンが出ているとき	
左右リアチャンネル（または左右リアバーチャルチャンネル）を調節する	左または右リアチャンネル（左または右リアバーチャルチャンネル）からテストトーンが出ているとき	小さくするには 

## テストトーンが出ているときの各チャンネル表示

- A：バーチャルサラウンドまたはサイレントシアターを選んでいるとき  
 B：バーチャルサラウンドまたはサイレントシアター以外を選んでいるとき



- Aのリアバーチャルチャンネルは左右別々には調節できません。
- サイレントシアターを選んでいるとき、テストトーンはAの順番で切り換わりますが、左右メインチャンネルの調節はできません。左右リアバーチャルチャンネルのみ調節できます。
- 左右メインチャンネルを調節した場合は、センターおよび左右リアチャンネル、またはリアバーチャルチャンネルの音量をもう一度調節してください。



## メモ

音量は次の範囲で調節できます。

## A：バーチャルサラウンドまたはサイレントシアターを選んでいるとき

左右メインチャンネル(バーチャルサラウンドのみ)：-10~±0dB

リアバーチャルチャンネル：-3~+3dB

メインチャンネルは-10dBで、リアバーチャルチャンネルは-3dBで音量が最小になります。

## B：バーチャルサラウンドまたはサイレントシアター以外を選んでいるとき

左右メインチャンネル：-10~±0dB

センターチャンネル：-20~+3dB

左右リアチャンネル：-20~+6dB

メインチャンネルとセンターチャンネルは-20dBで音量が最小になります。

## 5

## テストキーを押す



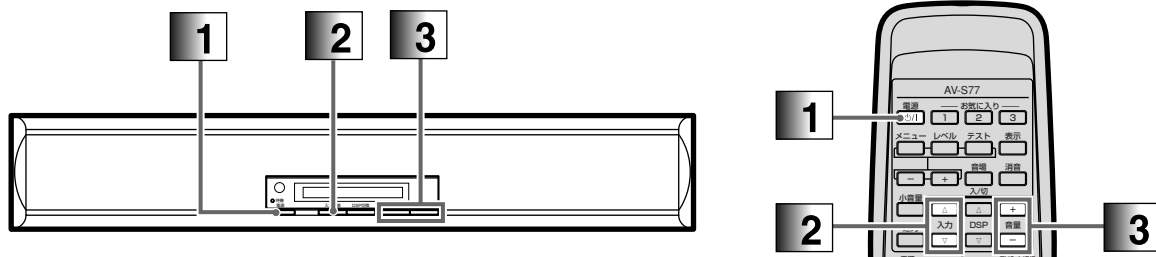
テストトーンが消えます。

# 操作のしかた

## ホームシアターサウンドシステムを楽しむ

ここでは、テレビ、ビデオデッキ、DVD、LD、CD、MD、BSデジタル放送などの音声をホームシアターサウンドシステムAV-S77で楽しむための入力切り換え、音量調節について説明します。

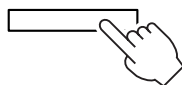
あらかじめ再生する機器およびテレビの電源を入れてから、次の手順にしたがって操作してください。



### 1 電源キーを押して電源を入れる

《本体》

電源



または

《リモコン》

電源

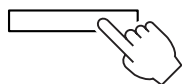


待機インジケータが消えます。

### 2 本体の入力切換キー、またはリモコンの入力△/▽キーで開きたいソースを選ぶ

《本体》

入力切換



または

《リモコン》

△

入力

▽

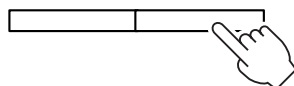


本体の入力切換キーまたはリモコンの入力△キーを押すたびに、ビデオ→テレビ→ヨビニューリヨク(予備入力)→デジタル1→デジタル2→6ch インプット(6チャンネル入力)の順序で切り換わります。リモコンの▽キーを押すと、逆の順序で切り換わります。

### 3 音量 + または - キーで音量を調節する

《本体》

- 音量 +



または

《リモコン》

+

音量

-



音量 + キーを押すと音が大きくなり、- キーを押すと小さくなります。

## 操作のしかた

## 入力モードを切り換える

デジタル1およびデジタル2端子に接続した機器の入力モードを「オートモード」または「dts コテイ」に切り換えることができます。

オートモード： CDなどのPCM信号、ドルビーデジタル信号、dts信号を自動的に判別します。

dts コテイ： dts信号に固定します。

通常は「オートモード」の設定で再生できますが、「オートモード」でdts対応のCDを再生すると、最初に本機がdts信号を識別してdtsデコーダーが作動するまでの少しの間、ノイズが発生することがあります。また、プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号が途切れると、**dts**インジケータが点滅することがあります。この状態が約30秒以上続くと、自動的にDTS信号入力からデジタル(PGM)信号入力に切り換わり、**dts**インジケータは消えます。故障ではありませんがこれを避けるためには入力モードを「dts コテイ」にしてください。

dts対応のCDを「オートモード」で再生し、停止すると、その後約30秒間はCDなどのPCM信号を再生しても音が出ず**dts**インジケータが点滅します。この状態は約30秒経過すると解除されます。

- 1 本体の入力切換キー、またはリモコンの入力△/▽キーを押して、デジタル1またはデジタル2を選びます。



- 2 もう一度同じキーを約3秒間押し続けて、入力モードを切り換えます。

入力切換キーまたは入力△/▽キーを押し続けるごとに「dts コテイ」と「オートモード」が切り換わり、次のように表示されます。

「D1←dts コテイ」 ↔ 「D1←オートモード」

- 入力がデジタル1のときは「D1」が、デジタル2のときは「D2」がモード名の前に表示されます。
- **dts**インジケータは「dts コテイ」に設定すると常時点灯し、「オートモード」に設定するとdts信号を入力していないときは消えます。

- 電源を待機状態にすると、入力モードの設定は「オートモード」に戻ります。
- dts対応ソフトを再生するときは、必ずデジタル入力に接続してください。
- DVDプレーヤーなどから出力されるdts信号に何らかの処理(音量レベル可変処理)がされている場合はDTS信号として認識されないため、本機とデジタル接続されていても再生できないことがあります。

## ! ご注意!

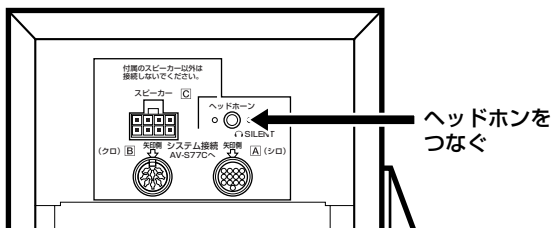
音が歪んでしまうような大音量で長時間再生すると、スピーカーを破損することがあります。

## ヘッドホンで聴く

スーパーウーファー背面のヘッドホン端子にヘッドホンをつなぎます。

音場効果をかけると、音場プログラムがサイレントシアターになり、ヘッドホンでも立体感のある音声をお楽しみいただけます。

## スーパーウーファー



## ! ご注意!

ヘッドホンのプラグを抜くときは、ヘッドホン端子の位置を確認し、プラグを持ちながら抜いてください。コードを引っ張らないように注意してください。

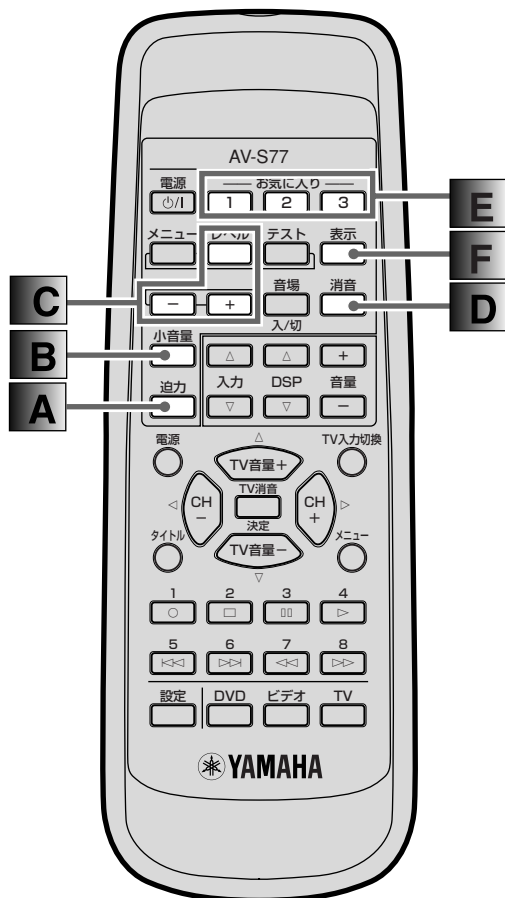
## 本機を使い終わったら

電源キーを押して待機状態にします。



スーパーウーファーの電源も待機状態になります。電源を完全に切るには、スーパーウーファーの電源コードをコンセントから抜きます。

# 便利な機能を使う



## 再生中に使える便利な機能

### A 低音の迫力をアップする

迫力キーを押します。



「ハクリョクモード オン」が表示されます。  
低音が強調され、サウンドの迫力が増します。

**迫力モードをやめるには：**  
迫力キーをもう一度押します。

#### メモ

- ヘッドホンを接続している場合は、迫力モードになりません。
- 工場出荷時は、オンに設定されています。

#### ！ご注意！

カサカサした音がスーパーウーファーから聞こえる場合は、スーパーウーファーのレベルを下げてください。低音のレベルが大きすぎるとスーパーウーファーが破損することがあります。

### B 小さな音量でもメリハリのきいた音で楽しむ

小音量キーを押します。



「ショウオンリョウモード オン」が表示されます。  
音がよりクリアに聞こえます。  
夜間など、大きな音量を出しにくいときにお使いください。

**小音量モードをやめるには：**  
小音量キーをもう一度押します。

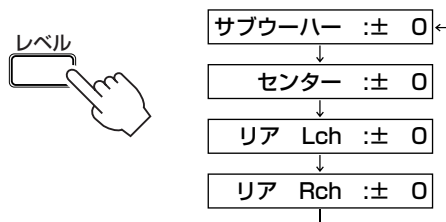
#### メモ

- このキーでは音量を小さくできません。  
音量を小さくするには音量-キーを押してください。
- ヘッドホンを接続している場合は、小音量モードになりません。
- 工場出荷時は、オフに設定されています。

### C スーパーウーファー(サブウーファー)、センター、左右リアのレベルを調節する

再生音を聴きながら、お好みに応じてスーパーウーファー(サブウーファー)、センター、左右リアの各チャンネルレベルを調節することができます。

- 1 レベルキーを押して調節するチャンネルを選びます。  
レベルキーを押すごとに次の順序でチャンネルを選ぶことができます。



- ヘッドホンを接続している場合や、音場プログラムの種類によって、選ぶことのできるチャンネル表示が変わります。

## 便利な機能を使う

2 +または-キーでレベルを調節します。



### メモ

- レベルは次の範囲で調節できます。  
スーパーウーファー：-20～+6dB  
センターチャンネル：-20～+3dB  
左右リアチャンネル：-20～+6dB  
リアバーチャルチャンネル(バーチャルサラウンドまたはサイレントシアターのとき)：-3～+3dB
- レベルを調節すると、テストトーンで調節したレベルも同様に変更されます。
- スーパーウーファー以外のチャンネルレベルは、あらかじめテストトーンで調節しておくことをお勧めします。
- ドルビーデジタル/dtsのソースを再生する場合は、通常±0dB以下に調節してください。
- 6チャンネル入力端子に接続した機器を再生しているときは、チャンネルレベルを調節することはできません。接続した機器にレベル調節機能がある場合は、必要に応じて調節してください。

### ！ご注意！

迫力モードにしているときや、重低音のレベルを上げてドルビーデジタルやdtsのソースを再生しているときに、カサカサした音や歪んだ音がスーパーウーファーから聞こえることがあります。その場合は、スーパーウーファーのレベルを下げてください。低音のレベルが大きすぎるとスーパーウーファーが破損することがあります。

## D 一時的に音を消す

消音キーを押します。



音を消しているあいだは、「\* ショウオン \*」が表示されます。

もとの音量に戻すには：

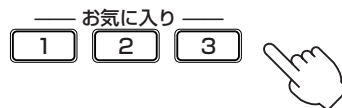
もう一度消音キーを押します。また、音量+/-キーを押しても消音は解除され、音量を調節することができます。

## E 好きな設定を呼び出す

お気に入りキー(1、2、3)のそれぞれに、入力とその時に選んでいた音場プログラム、スーパーウーファーのチャンネルレベル、迫力モード、小音量モードの設定を記憶させると、いつでも呼び出すことができます。

お気に入りキーに記憶させるには：

記憶させたいキー(1、2または3)を約3秒間押し続けます。



選んだキーの数字が「オキニイリ」のあとに表示され、今の設定が記憶されます。

例：お気に入りキー1を押すと、「オキニイリ 1」と表示されます。

お気に入りを呼び出すには：

設定を記憶させたキー(1、2または3)を押します。選んだキーの数字が「オキニイリ」のあとに表示され、お気に入りの設定に切り換わります。

- 3秒以上キーを押していると、そのときの各設定が記憶され、以前に記憶した設定は消えてしまいます。

お気に入りを消去するには：

設定を消したいキー(1、2または3)を約10秒間押し続けます。選んだキーの数字が「オキニイリ クリアー」のあとに表示され、記憶されていた設定が消えます。(キーを押すと約3秒後に「オキニイリ 1(または2、3)」と表示されますが、そのまま押し続けてください。)

- 表示が「オキニイリ」から「オキニイリ クリアー」に変わる前にキーを押すのをやめると、そのときの各設定が記憶されます。

## F 表示のしかたを設定する

通常を表示を「入力名」または「音場プログラム名」に設定できます。

表示キーを押すと、「ヒョウジ：インプット」と「ヒョウジ：DSP」が切り換わります。



表示部分には操作に応じた表示が出ますが、数秒後に「入力名」または「音場プログラム名」に戻ります。

### メモ

「ヒョウジ：DSP」モードでは、6チャンネル入力を選ぶと「ガイブデコーダー」と表示されます。

# 音場プログラムについて

多彩な音場プログラムの中から再生するソースに合ったプログラムを選ぶだけで、映画館やコンサートホールで体験するような臨場感を味わうことができます。ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、dtsやヤマハシネマ DSP(デジタルサウンドフィールドプロセッシングプログラム)の世界をお楽しみください。

## 音場プログラムの種類

No.	プログラム名	特長および最適ソース
1-1	バーチャルサラウンド (ドルビーデジタル入力するとき)	左右メインチャンネルのみで、ドルビーデジタル、ドルビープロロジックまたはdtsに迫る仮想サラウンド音場を楽しめます。 (1-1～1-3のプログラムは、入力ソースに応じて自動的に選択されます。お好みによって選ぶことはできません。)
1-2	バーチャルサラウンド (ドルビーデジタル/dts入力以外するとき)	
1-3	バーチャルサラウンド (dts入力するとき)	
2-1	ドルビーデジタル (ドルビーデジタル入力するとき)	ドルビーデジタル、ドルビープロロジックまたはdtsデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。 (2-1～2-3のプログラムは、入力ソースに応じて自動的に選択されます。お好みによって選ぶことはできません。)
2-2	ドルビープロロジック (ドルビーデジタル/dts入力以外するとき)	
2-3	dts (dts入力するとき)	
3-1	デジタルムービーシアター (ドルビーデジタル入力するとき)	最新の映画のサウンドデザインをセリフと効果音に描き分け、映画館で観ているような臨場感あふれるサウンドを実現します。 (3-1～3-3のプログラムは、入力ソースに応じて自動的に選択されます。お好みによって選ぶことはできません。)
3-2	70mmムービーシアター (ドルビーデジタル/dts入力以外するとき)	
3-3	dtsムービーシアター (dts入力するとき)	
4	ゲーム	サウンドに奥行きとサラウンド感を持たせることで、ゲームをよりリアルで迫力あるものに演出します。
5	ホール	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊かな響きが特長です。
6	コンサート/スポーツ	バラエティーや中継番組など、適用範囲の広い音場効果。残響音を比較的抑えているので、長時間使用しても違和感がありません。
7	モノムービー	古いモノラル音声映画専用のポジションです。音場効果と適度な残響処理により、モノラル音声豊かな響きでよみがえります。

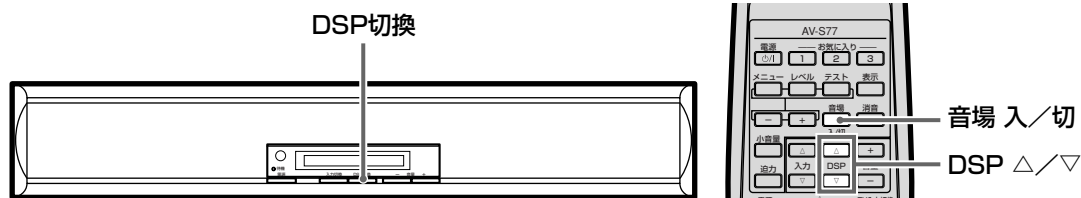
## ヘッドホンを接続している場合

No.	プログラム名	特長および最適ソース
8	サイレントシアター	ヘッドホンでも立体感のあるサウンドを楽しむためのプログラムです。DVDなどマルチチャンネルの映画ソフトに向いています。



## 音場プログラムについて

### 音場プログラムを楽しむ

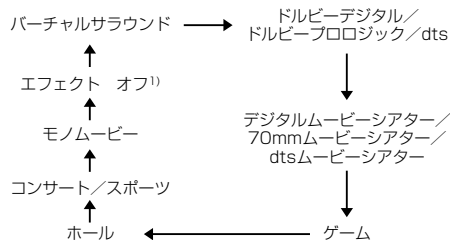


DSP切換キー（本体）またはDSP△/▽キー（リモコン）を押します。



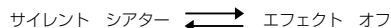
キーを押すごとに、音場プログラムが次のように切り換わり、いま選んでいる音場プログラムが表示されます。

- リモコンのDSP▽キーを押すと逆順で音場プログラムが表示されます。



1) 本体の音場切換キーでのみ、「エフェクト オフ」を経由します。

#### ヘッドホンを接続している場合



お聴きになるソース(音源)の雰囲気にあった音場プログラムを選んでください。

- 入力端子(ビデオ/テレビ/予備入力/デジタル1/デジタル2)ごとに、最後に使用していた音場プログラムがメモリーされるので、入力を切り換えると音場プログラムも自動的に切り換わります。

#### 音場効果を切るには(リモコンの場合)

音場入/切キーを押します。音場効果を切ると通常のスtereo再生になり、「エフェクト オフ」と表示されます。もう一度押すと音場効果がかかります。

#### プロセッシングインジケータについて

音場効果をかけて再生すると、デコーダーやプロセッサの動作状態に応じてプロセッシングインジケータが点灯します。

- DIGITAL : ドルビーデジタル(5.1チャンネル)でエンコードされた信号を再生すると点灯します。
- PRO LOGIC : 音場プログラムNo. 2-2で再生しているとき、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号、アナログ信号を再生すると点灯します。
- dts : dtsエンコードされた信号を再生すると点灯します。
- DSP : 音場プログラムNo. 3-1~7で再生しているとき点灯します。

- 再生するソフト(信号フォーマット)によっては、インジケータと一致しなかったり、同じ種類のソフトでも異なるインジケータが点灯することがあります。入力ソースによって自動的に選択される音場プログラム(1-1~3-3)では、音場プログラム名もインジケータの点灯に応じて表示されます。

- バーチャルサラウンド、ドルビーデジタル/ドルビープロロジック/dts、デジタルムービーシアター/70mmムービーシアター/dtsムービーシアターは、ビジュアルソフト または と表示されているドルビーエンコードソースの再生に最適なプログラムです。
- 実測された音場データを採用しているためソースによっては左右メインチャンネルの音量が異なる場合があります。(ドルビーデジタル、dtsを除く)
- 音場プログラムは名前にこだわらず、聴感上最も気に入ったものを選択してください。また、実際に聴くときは、プログラムの音場にリスニングルーム自体の響きが付加されます。プログラムの音場を楽しむには、リスニングルームをできるだけデッドに(響きが少なくなるように)調整しましょう。

#### メモ

- バーチャルサラウンドの音場プログラムで再生する場合、バーチャルサラウンド効果を最大限に発揮させるには、テレビの音量を絞ってください。
- 6チャンネル入力ソースに音場効果を加えることはできません。(「6ch インプット」を選ぶと「ガイブデコーダー」と表示されます。)

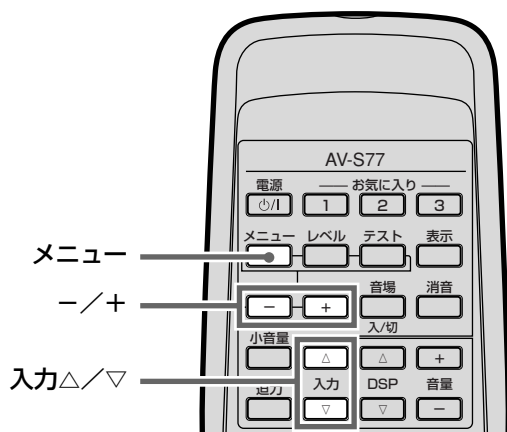
# メニュー機能の設定

メニュー機能には以下の設定項目があります。

- スリープタイマーを設定する「スリープ」
- オートパワーオフを設定する「オートパワー」
- 表示窓の明るさを調節する「ディマー」
- 入力に名前をつける「インプットネーム」
- サラウンド音の遅延時間を調節する「ディレイタイム」
- 日本語／英語表示を切り換える「ニホンゴ／エイゴ」

メニューキーを押すたびに、「スリープ」→「オートパワー」→「ディマー」→「インプットネーム」→「ディレイタイム」→「ニホンゴ／エイゴ」→通常の表示(入力または音場プログラム名表示)、の順で切り換わります。

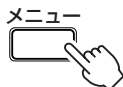
- 音場プログラムNo. 3-1～7を選んでいると、ディレイタイムは表示されません。



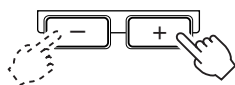
## スリープタイマーを設定する

設定した時間が経過すると電源が待機状態になるので、お好みのソースを楽しみながらおやすみになれます。再生する機器のスリープタイマーを、本機のスリープタイマーと同じ時間に設定してください。

- 1 メニューキーを押して「スリープ」を表示させます。



- 2 +または−キーを押して電源が切れるまでの時間を設定します。



+キーを押すと次のように切り換わります。

OFF → 30分 → 60分 → 90分 → 120分

- −キーを押すと逆の順序で切り換わります。

スリープタイマーを解除するには

「OFF」の表示が出るまでキーを何回か押します。

### メモ

- 電源キーを押して待機状態にしても、スリープタイマーは解除されません。
- スリープタイマーがはたらいているとき、残り時間を確認するにはメニューキーを押して「スリープ」を表示させます。

### 設定が終わったら

約10秒過ぎると通常の表示(入力または音場プログラム名表示)に戻りますが、メニューキーを押して通常の表示にもどることもできます。

## オートパワーオフを設定する

オートパワーオフとは次の動作のことをいいます。

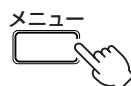
入力信号が無く、しかもキーを操作しない状態が約30分続く



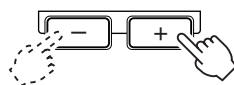
自動的に電源が待機状態になる  
**オートパワーオフ**  
(待機インジケーターが点灯する)

オートパワーオフの感度の設定と、オートパワーオフ機能を使用しない設定が選べます。

- 1 メニューキーを押して「オートパワー」を表示させます。



- 2 オートパワーオフに設定するとき：「オートパワー2」を+または−キーで選びます。オートパワーオフを使わないとき：「オフ」を−キーで選びます。



接続する機器の信号出力レベルによっては、オートパワーオフ機能が正しくはたらかないことがあります。このような場合は、下の表を参考にしてオートパワーオフの感度を変更してください。

+キーを押すと↓の順に、−キーを押すと↑の順に選べます。

## メニュー機能の設定

表示	設定内容/症状
オフ	オートパワーオフ機能を使用しない
1	信号が入っているのにオートパワーオフになってしまう場合
2	オートパワーオフ機能を使用する場合の通常の設定
3	信号が入っていないのにオートパワーオフにならない場合

## ❗ ご注意 ❗

オートパワーオフ機能は左右メインチャンネルへの入力信号を検出することではたらかず。このため、「6ch インプット」を入力ソースに選んでいるとき、6チャンネル入力のメイン左右端子に入力機器が接続されていないと、オートパワーオフ機能がはたらいてしまいます。

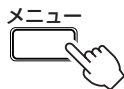
## 設定が終わったら

約10秒過ぎると通常の表示(入力または音場プログラム名表示)に戻りますが、メニューキーを押して通常の表示にもどることもできます。

## 表示の明るさを調節する

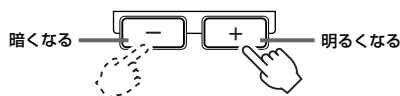
フロントスピーカーの表示の明るさを調節できます。

- 1 メニューキーを押して「ディマー」を表示させます。



現在設定されている明るさが(ディマー: ±0など)表示されます。

- 2 +または-キーを押して調節します。  
-キーを押すと暗くなり、+キーを押すと明るくなります。



-3(いちばん暗い)から+3(いちばん明るい)まで調節できます。+3(いちばん明るい)の設定は、本機を操作した直後の表示の明るさと同じです。

## 設定が終わったら

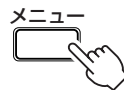
約10秒過ぎると通常の表示(入力または音場プログラム名表示)に戻りますが、メニューキーを押して通常の表示にもどることもできます。

## 入力に名前をつける

予備入力、デジタル1およびデジタル2に名前をつけることができます。(テレビ、ビデオ、6チャンネル入力の入力名は変更できません。) どの入力端子に何の機器をつないでいるかがすぐわかるような名前をつけると、入力を選ぶときに便利です。

たとえば、予備入力端子にMDをつないでいるときは「MD」、デジタル1端子にDVDをつないでいるときは「DVD」などを選ぶと良いでしょう。

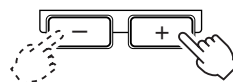
- 1 メニューキーを押して「インプットネーム」を表示させます。



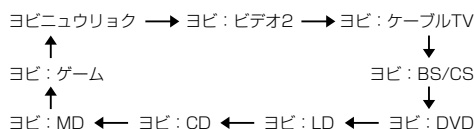
- 2 入力△/▽キーを押して、名前をつける入力(予備入力、デジタル1または2)を選びます。



- 3 +または-キーを押して名前を選びます。



手順2で予備入力を選んだときは、+キーを押すと次の順で名前が表示されます。



手順2でデジタル1または2を選んだときは、+キーを押すと次の順で名前が表示されます。



デジタル1のときは「D1:」が、デジタル2のときは「D2:」が名前の前に表示されます。

- -キーを押すと逆の順序で名前が表示されません。

手順1~3を繰り返して予備入力、デジタル1、2に名前をつけることができます。

## メニュー機能の設定

### 設定が終わったら

約10秒過ぎると通常の表示(入力または音場プログラム名表示)に戻りますが、メニューキーを押して通常の表示にもどることもできます。

## ディレイタイムを調節する

音場プログラムがバーチャルサラウンド、ドルビーデジタル/ドルビープロロジック/dts、サイレントシアターのとき、ディレイタイム(メインチャンネルの音が聞こえてからサラウンド音が聞こえるまでの時間)を調節できます。

ディレイタイムを長めに設定すると、音場空間が大きく感じられ、短めに設定すると小さく感じられます。

- 1 メニューキーを押して「ディレイタイム」を表示させます。



- 2 -または+キーを押してディレイタイムを調節します。



### 調節できる範囲

ドルビーデジタル(2ch以外)/dts入力するとき：

0~15ms(工場出荷時：5ms)

上記入力以外するとき：

15~30ms(工場出荷時：20ms)

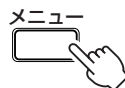
- ディレイタイムのレベルはすべて連動して調節されます。例えばドルビーデジタル(2ch以外)/dts入力のディレイタイムを0ms(最少値)から5msにすると、それ以外の信号入力は自動的に15ms(最少値)から20msになります。

### 設定が終わったら

約10秒過ぎると通常の表示(入力または音場プログラム名表示)に戻りますが、メニューキーを押して通常の表示にもどることもできます。

## 日本語／英語表示を切り換える

- 1 メニューキーを押して「ニホンゴ／エイゴ」を表示させます。



「ニホンゴ センタク」が表示されます。

- 2 英語表示にするには、-または+キーで「English Sel.」を選び、日本語表示にするには、「ニホンゴ センタク」を選びます。



-または+キーを押すたびに「English Sel.」と「ニホンゴ センタク」が切り換わります。

### 設定が終わったら

約10秒過ぎると通常の表示(入力または音場プログラム名表示)に戻りますが、メニューキーを押して通常の表示にもどることもできます。

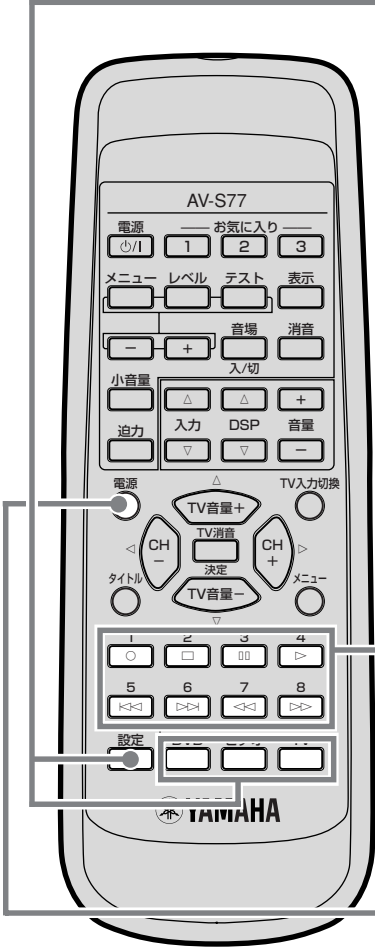
# テレビ、ビデオ、DVDをリモコンで操作する

お使いのテレビやビデオデッキ、DVDプレーヤーのメーカーコード(各メーカーごとに割り当てられた信号)を設定すると、本機とあわせてお使いになる機器をリモコン操作することができます。

## ！ご注意！

機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は各機器専用のリモコンをお使いください。

## メーカーコードを設定する



**1** 設定キーを押しながら、メーカーコードを設定するリモコン切換キーを押す

設定 + DVD ビデオ TV

1つのキーに1つのメーカーコードが設定できます。

**2** 設定キーを押したまま、機器のメーカーコード(2桁)を数字キーを押して入力する

設定 + 1 2 3 4  
5 6 7 8

入力が終わったら設定キーから指を離します。  
● メーカーコードについては38ページをご覧ください。

**3** 電源キーを押して、コードを設定した機器の電源を入/切(待機状態)し、正しく設定されたことを確認する

**メモ**  
リモコン切換キー(DVD、ビデオ、TV)には、工場出荷時にメーカーコード11が設定されています。

## テレビ、ビデオ、DVDをリモコンで操作する

### 設定するときの注意

メーカーコードが正しく設定されると、リモコンのTV、ビデオデッキ、DVD操作キーでメーカーコードを設定した機器を操作できます。

**リモコンのTV、ビデオデッキ、DVD操作キーを押しても、メーカーコードを設定した機器を操作できないとき**



#### 手順1から操作をやり直す

操作をやり直すときは、次の点に注意してください。

- メーカーコードを設定するとき、リモコン切換キーを正しく選んでいるか、確かめる。
- 複数のメーカーコードがある場合は順番に入れてみる。
- リモコンの電池をいったん取り出し、もういちど入れてから(2分以内に行ってください)操作をやり直す。このとき、リモコンのキーを押さないように注意してください。他のリモコン切換キーにメーカーコードが設定してある場合は、消えてしまう恐れがあります。

### 工場出荷時の設定に戻すには

37ページの「メーカーコードを設定する」を行い、手順2で設定キーを押しながら「11」を入力します。(手順3は必要ありません。)

## メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。また、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。このような場合は各機器専用のリモコンをお使いください。

#### テレビ

NEC	17, 52
サンヨー	15, 33, 71, 72, 73, 74
JVC (ビクター)	16, 46, 47
シャープ	12, 31, 32
ソニー	63
東芝	12, 26, 67
パイオニア	26, 35, 54, 55, 68
パナソニック	34, 35, 36, 53
日立	17, 31, 42, 43
三菱	11, 17, 51
ヤマハ	11, 12

#### ビデオデッキ

サンヨー	13, 36, 67
JVC (ビクター)	12, 14, 44, 45, 46, 47
シャープ	15, 62, 82
ソニー	68, 71, 72, 73, 74, 75
東芝	35, 61, 81
パナソニック	25, 28, 31, 55, 78, 84, 85
日立	25, 33, 41, 42, 43
三菱	11, 44, 48, 51, 52, 53
ヤマハ	11, 12, 13, 14

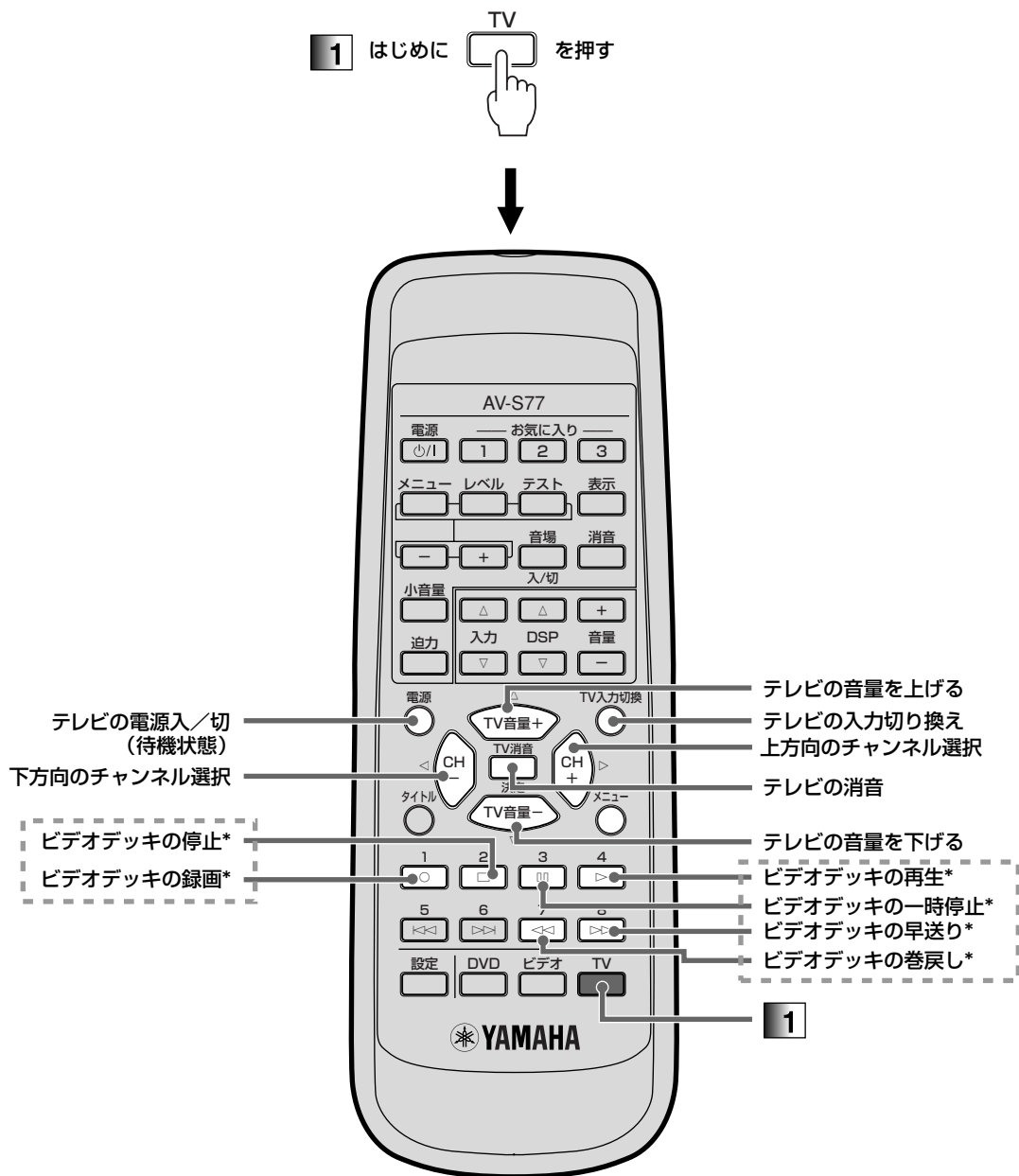
#### DVDプレーヤー

オンキヨー	14, 17, 18
JVC (ビクター)	21
ソニー	13
デンオン	12, 25
東芝	14
パイオニア	22, 23, 24
パナソニック	12, 15
日立	16
フィリップス	28
ヤマハ	11, 12, 28

## テレビ、ビデオ、DVDをリモコンで操作する

## テレビを操作する

お使いになるテレビのメーカーコードをリモコン切換キーの「テレビ」に設定すると操作できます。

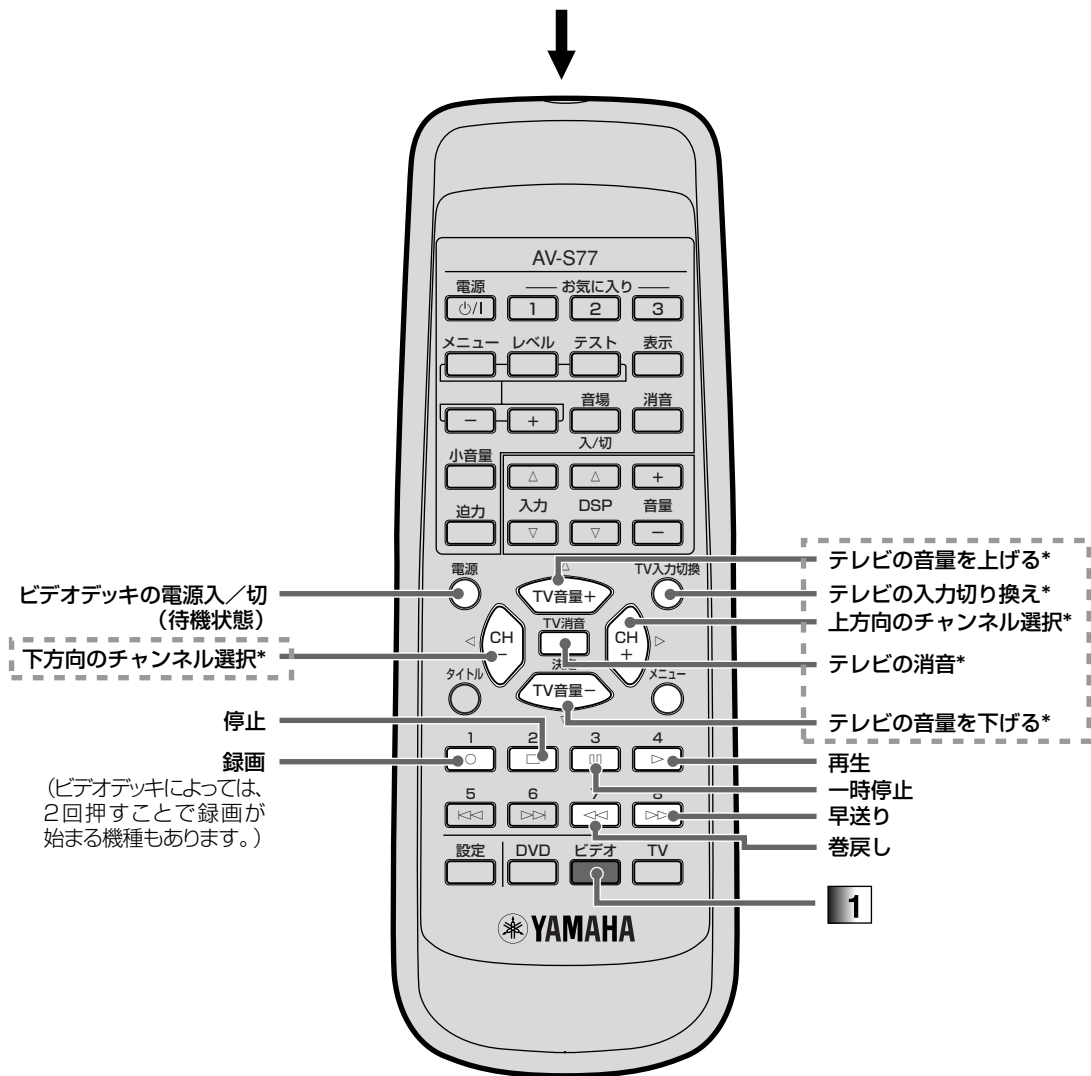


\* リモコン切換キーの「ビデオ」にビデオデッキのメーカーコードを設定すると、これらのキーでビデオデッキを操作できます。

## テレビ、ビデオ、DVDをリモコンで操作する

## ビデオデッキを操作する

お使いになるビデオデッキのメーカーコードをリモコン切換キーの「ビデオ」に設定すると操作できます。



\* リモコン切換キーの「テレビ」にテレビのメーカーコードを設定すると操作できます。

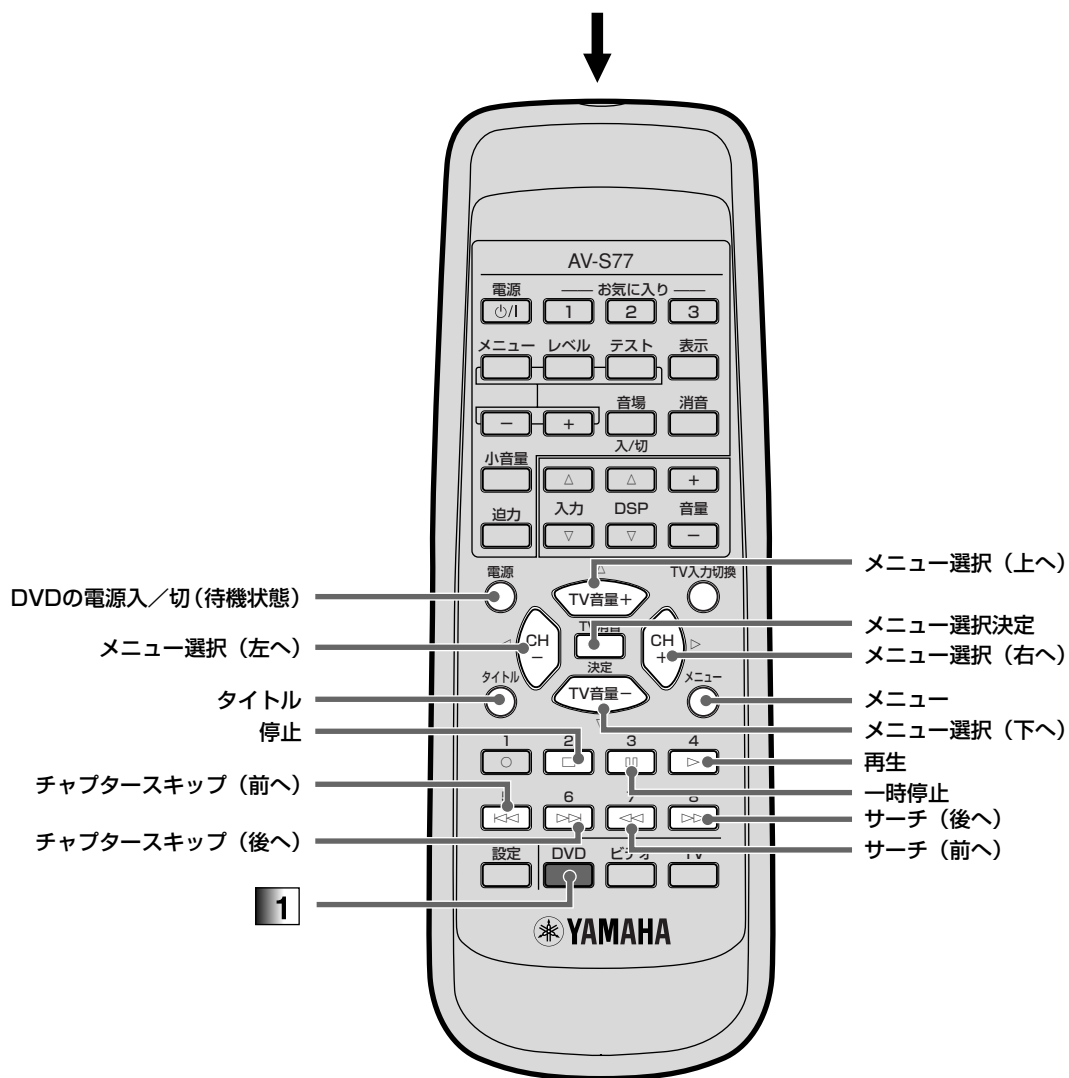


## テレビ、ビデオ、DVDをリモコンで操作する

## DVDを操作する

お使いになるDVDプレーヤーのメーカーコードをリモコン切換キーの「DVD」に設定すると操作できます。

**1** はじめに  を押す



# 用語解説

## エンコード／デコード

信号や情報を加工、圧縮、デジタル化することをエンコードといいます。エンコードすることで、非常に多くの信号や情報量を一枚のCDやDVDなどに収録することができます。

エンコードされた信号はそのままでは音として聞くことができません。これをもとの信号に戻すことをデコードといい、音として聞くことができます。

## 音場

音は発生源から直接人間の耳に届くだけでなく、壁や天井に反射してやや遅れて到達したり(初期反射音)、複雑に反射を繰り返しながら消えていったりします(後部残響音)。こうしたさまざまな音を聴くことで、人間はその場所の広さや形状を知覚することができます。このような建物などが持つ独自の音響空間を音場と呼びます。

## ドルビープロロジック

映画館や劇場では、観客席を取り囲む多くのスピーカーによって、シーンに合わせて前後左右に移動する効果音、体全体を包み込むような立体サウンドが楽しめます。こうした臨場感を実現するのがドルビープロロジックです。本来、ドルビープロロジック方式は、左右フロント(2チャンネル)+センター(1チャンネル)+リア(1チャンネル)の合計4チャンネル構成ですが、家庭向けの放送メディアやビデオでも楽しめるよう、ステレオ(2チャンネル)との互換性が保たれ、ステレオ再生が可能なご家庭のAVシステムで手軽に楽しめることが大きな特長となっています。

## ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のリアチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル記録方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。この方式は現在、ほとんどのビデオテープ、LDの他、テレビ、ケーブル放送などにも広く普及しています。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーが、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

## ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声をお届けするデジタルサラウンドシステムです。フロントの3チャンネル(レフト、センター、ライト)と、リアのステレオ2チャンネルがあり、それぞれフル帯域の音声成分を持っています。さらにLFE(Low Frequency Effect)と呼ばれる、他のチャンネルとは別に設けられた低音域専用のチャンネルを加え、合計5.1チャンネルとなります(LFEは0.1とカウントされる)。

ドルビーサラウンドと比較するとリアがステレオ2チャンネルで収録されているため、音の移動感や周囲の環境音がより明確に感じられます。また、フル帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジ(最大音から最小音までの幅)と、正確な音の定位が、かつてないような迫力とリアリズムを再現します。

本機では、モノラルから最高5.1チャンネルまで様々なソースをお楽しみいただけます。

## DTS (デジタル・シアター・システムズ) デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる6チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。その厚みのある音と自然な空間表現を家庭でも楽しめるように、DTSテクノロジー社が家庭用システムを開発しました。極めて劣化の少ないクリアな音質の6チャンネル(技術的にはレフト、ライト、センター、2つのリアチャンネルに、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)です。

## LFE 0.1チャンネル

音声成分の帯域が20~120Hzの低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルおよびDTSにおいて、フル帯域の5チャンネルに対し、効果的な場面で低音を増強するために録音されるので、0.1チャンネルとカウントされます。

## シネマDSP

ドルビーサラウンド、DTSのシステムは、もともと映画館用にデザインされているため、スピーカーの数が多く、音響効果を考慮して設計された映画館で、その効果を最大限に発揮します。ご家庭では、当然ながらお部屋の広さ、壁の材質、スピーカーの数などの条件が異なるため、視聴感に差がでてしまいます。そこでヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を自在に応用し、ドルビープロロジック、ドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて、音のスケールや奥行き、音量感をおぎない、ご家庭のリビングルームで映画館のような視聴体験を可能にします。

## サイレントシアター

ヘッドホン専用のパラメーターが設定され、自然で立体感あふれるサウンドをヘッドホンでも楽しめます。自然で立体感あふれる音場効果のヘッドホンDSPアルゴリズムを開発搭載しています。

## バーチャルサラウンド

リアスピーカーなしでも仮想的リアスピーカーでDSPの音場サラウンド効果を楽しめるバーチャルシネマDSPアルゴリズムを開発搭載しています。

## PCM（パルスコードモジュレーション）

アナログ音声信号を圧縮せず、そのままデジタル信号化して録音・伝送する信号フォーマットです。ドルビーデジタルやDTSなどの圧縮された信号に対して、圧縮されていない信号なのでリニアPCMと呼ばれることもあります。CDやDVDオーディオの録音方法が例として挙げられます。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を使います。“PCM”は、パルス・コード・モジュレーションの略で、アナログ信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。

# 故障かなと思ったら

次のような場合は故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申し付けになる前にあらかじめお調べください。

- 本機を使用中に、強い外来ノイズ(衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常など)を受けた場合や誤った操作をした場合などに、操作を受けつけなくなるなどの異常が発生することがあります。このようなときは、いったん電源プラグを抜き、約30秒後に再びつないで操作をやり直してみてください。

どんな状態ですか？	ここをおたしかめください	参照ページ
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源コードが接続されていますか？</li> <li>● システム接続ケーブルが2本とも正しく接続されていますか？</li> <li>● スピーカーケーブルが正しく接続されていますか？</li> <li>● テレビやビデオデッキなどと正しく接続されていますか？</li> <li>● 入力を間違えていませんか？</li> <li>● 消音になっていませんか？</li> <li>● ヘッドホンが接続されていませんか？</li> </ul>	25 23 23 18~21 28 31 29
スーパーウーファーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● システム接続ケーブルが2本とも正しく接続されていますか？</li> <li>● スーパーウーファーのレベルを下げすぎていませんか？</li> </ul>	23 30
リアスピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スピーカーケーブルが正しく接続されていますか？</li> <li>● リアレベルを下げすぎていませんか？</li> <li>● 音場プログラムの「バーチャルサラウンド」を選んでいませんか？</li> <li>● モノラルのソースで音場プログラムの「ドルビープロロジック」を使っていませんか？</li> </ul>	24 26、30 32 32
センターチャンネルの音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● センターレベルを下げすぎていませんか？</li> </ul>	26、30
“ブーン” という雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源コードを伝わってくる電波が電源周波数によって変調をうけることがあります。電源差し込みプラグの左右を逆に差しかえてみてください。</li> </ul>	25
チューナやテレビに雑音が入ったり、画像が乱れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内アンテナを使ったチューナやテレビを本機の近くに置いていませんか？屋外アンテナの使用をおすすめします。</li> </ul>	—
室内アンテナを使っているテレビの画面に、しま模様が出る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 室内アンテナの向きや位置を変えてください。</li> </ul>	—

## ●音場プログラムを使うとき

どんな状態ですか？	ここをおたしかめください	参照ページ
映画のセリフなどが聞こえにくい。	● 音場プログラムの「ホール」や「コンサート／スポーツ」、「ゲーム」を使っていませんか？ 他のプログラムを選んでください。	32

## ●リモコンを使うとき

どんな状態ですか？	ここをおたしかめください	参照ページ
正しく動作しない。	● 乾電池が消耗していませんか？	3
	● 受信部に正しく向けていますか？	3
	● 受信部との距離が遠すぎませんか？ または近すぎませんか？	3
	● 受信部に強い日光や照明(インバーター蛍光灯など)があたっていませんか？	3
	● 他の機器のリモコンを同時に操作していませんか？	3
	● 乾電池の⊕ ⊖が逆になっていませんか？	3
他の機器を操作できない。	● メーカーコードを正しく設定していますか？	37

## ❗ご注意❗

スーパーウーファー、リアスピーカーの修理・アフターサービスの際は、フロントスピーカーとともにお持ち込みください。



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。  
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

# 仕様

## アンプ部

### 実用最大出力

フロント	30W+30W (1kHz、10% THD、6Ω)
リア	30W+30W (1kHz、10% THD、6Ω)
スーパーウーファー	50W (100Hz、10% THD、5Ω)

S/N比 95dB(予備入力、IHF-A)

### 全高調波歪率

0.05%(予備入力、1kHz、12.5W/6Ω)

### 入力感度/インピーダンス

200mV/50kΩ(予備入力)

## スピーカー

### フロントスピーカー

型名	AV-S77C
型式	バスレフ型
スピーカー	8cm コーン×2、防磁型
許容入力	30W
インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	120Hz~20kHz
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	600×110×220mm
重量	5.0kg

### リアスピーカー

型名	NX-S77E
型式	密閉型
スピーカー	8cm コーン、防磁型
許容入力	30W
インピーダンス	6Ω
再生周波数帯域	140Hz~20kHz
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	100×140×112mm
重量	0.8kg

### スーパーウーファー

型名	NX-SW77
型式	アドバンストヤマハアクティブ サーボテクノロジー方式
スピーカー	16cm コーン、防磁型
再生周波数帯域	30~200Hz
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	176×405×433mm
重量	11.0kg

## 総合

電源/電圧	AC 100V 50/60Hz
消費電力	110W
待機電力	1W
付属品	リモコン×1 単3乾電池×2 簡易接続図×1 オーディオ接続コード(2ピン)3m×1 スピーカーケーブル(リア:15m、フロント:3m)×1 システム接続ケーブル3m×2 フロントスピーカー固定テープ×2セット リアスピーカー取り付け部品:Aタイプ×2 Bタイプ×2 ネジ×2 蝶ネジ×2

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

\* 「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

\* 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

# 索引

## ア

インプットネーム→入力に名前をつける	35
MD プレーヤーのつなぎかた	20
LD プレーヤーのつなぎかた	19
オートパワーオフの設定	34
お気に入り	31
音場の切換→DSP切換	33
音量の調節	28
音場プログラム	32

## カ

固定テープの使いかた	13
------------	----

## サ

サイレントシアター	32
CD プレーヤーのつなぎかた	20
シネマ DSP →音場プログラム	32
消音	31
小音量モード	30
スピーカーの配置	12
スリープタイマーの設定	34
スルー出力端子	18

## タ

高さ調節金具の使いかた	14
DVD プレーヤーのつなぎかた	19
ディマー→表示の明るさの調節	35
ディレイタイム	36
デジタル入力端子	19、20
テストトーン	26
テレビのつなぎかた	18
電源コードのつなぎかた	25
取り付け金具の使いかた	15
ドルビーデジタル、 ドルビープロロジック	32

## ナ

日本語／英語表示の切換	36
入力に名前をつける	35
入力の切換	28

## ハ

バーチャルサラウンド	32
迫力モード	30
BS デジタルチューナーのつなぎかた	21
ビデオデッキのつなぎかた	18
表示の明るさの調節	35
表示の設定	31
表示窓	10
フロントスピーカー、スーパーウーファー、 リアスピーカーのつなぎかた	22

## マ

メーカーコードの設定	37、38
メニュー機能の設定	34

## ヤ

予備入力端子	20
--------	----

## ラ

リモコンでテレビの操作	39
リモコンでDVDの操作	41
リモコンでビデオデッキの操作	40
レベル調節	30
6チャンネル入力端子のつなぎかた	21

## ワ

ワイヤーの取り付け（落下防止用）	14
------------------	----

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

- **保証期間**  
お買上げ日より1年間です。
- **保証期間中の修理**  
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- **保証期間が過ぎているとき**  
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。
- **修理料金の仕組み**
  - ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
  - ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
  - ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- **補修用性能部品の最低保有期間**  
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- **持ち込み修理のお願い**  
故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。
- **製品の状態は詳しく**  
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。
- **スピーカーの修理**  
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。
- **摩耗部品の交換について**  
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。  
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。  
摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## ■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

### お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 2777

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00、13:00~18:00  
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

## ■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

**北海道** 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内  
TEL (011) 512 - 6108

**仙台** 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL (022) 236 - 0249

**首都圏** 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
TEL (03) 5762 - 2121

**浜松** 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内  
TEL (053) 465 - 6711

**名古屋** 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  
TEL (052) 652 - 2230

**大阪** 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16  
ヤマハ(株)千里丘センター内  
TEL (06) 6877 - 5262

**広島** 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14  
TEL (082) 874 - 3787

**四国** 〒760-0029 高松市丸亀町8-7  
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内  
TEL (087) 822 - 3045

**九州** 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



## ★永年ご使用のAV製品の点検を!

### こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

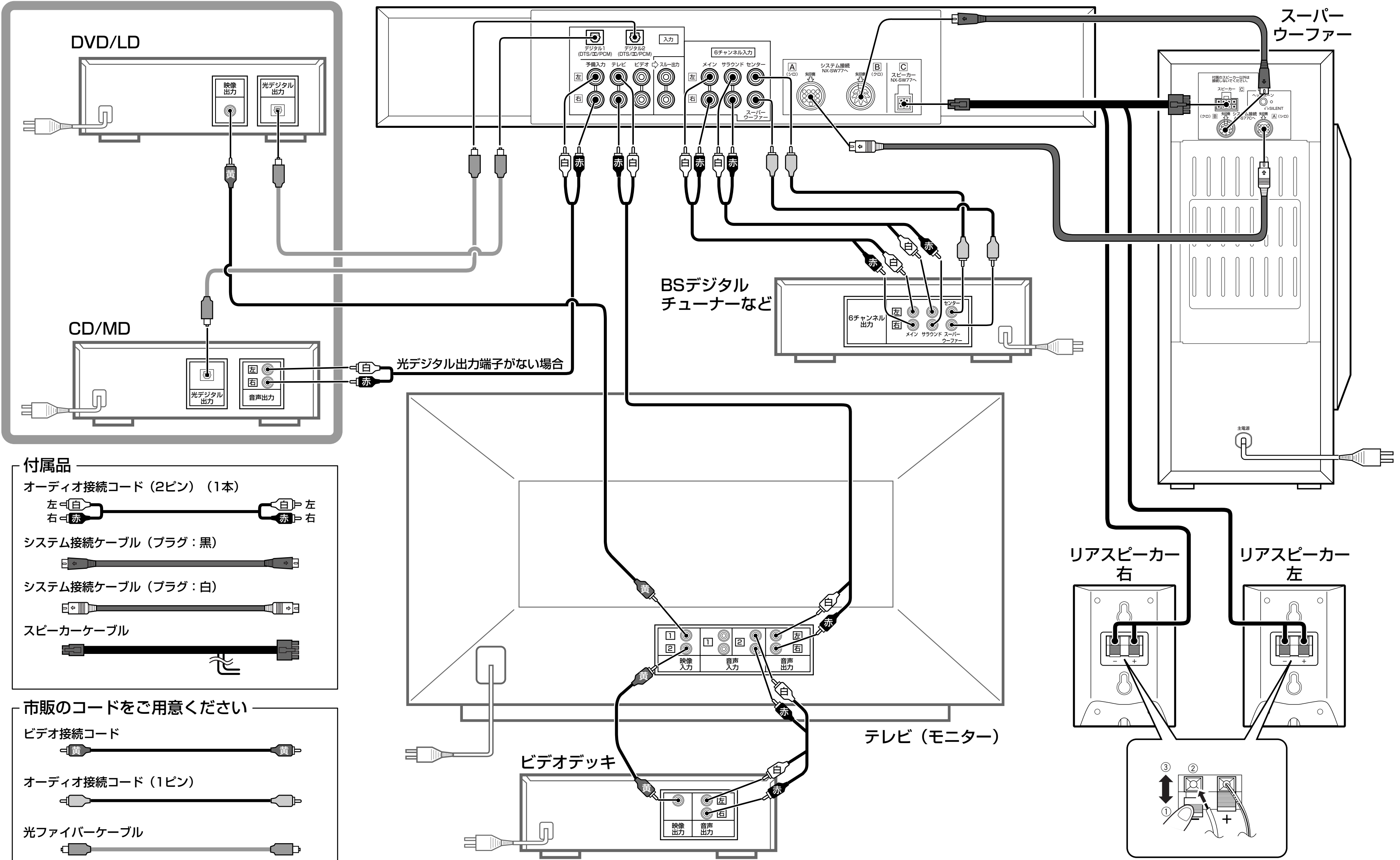
ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ  
<http://www.yamaha.co.jp/audio/>



# AV-S77 簡易接続図

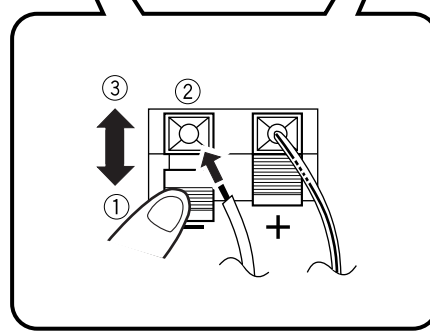
## 音声出力端子のあるテレビ（モニター）とのつなぎかた

デジタル音声を楽しむとき



- 付属品**
- オーディオ接続コード（2ピン）（1本）  
左 ← 白 → 左  
右 ← 赤 → 右
  - システム接続ケーブル（プラグ：黒）
  - システム接続ケーブル（プラグ：白）
  - スピーカーケーブル

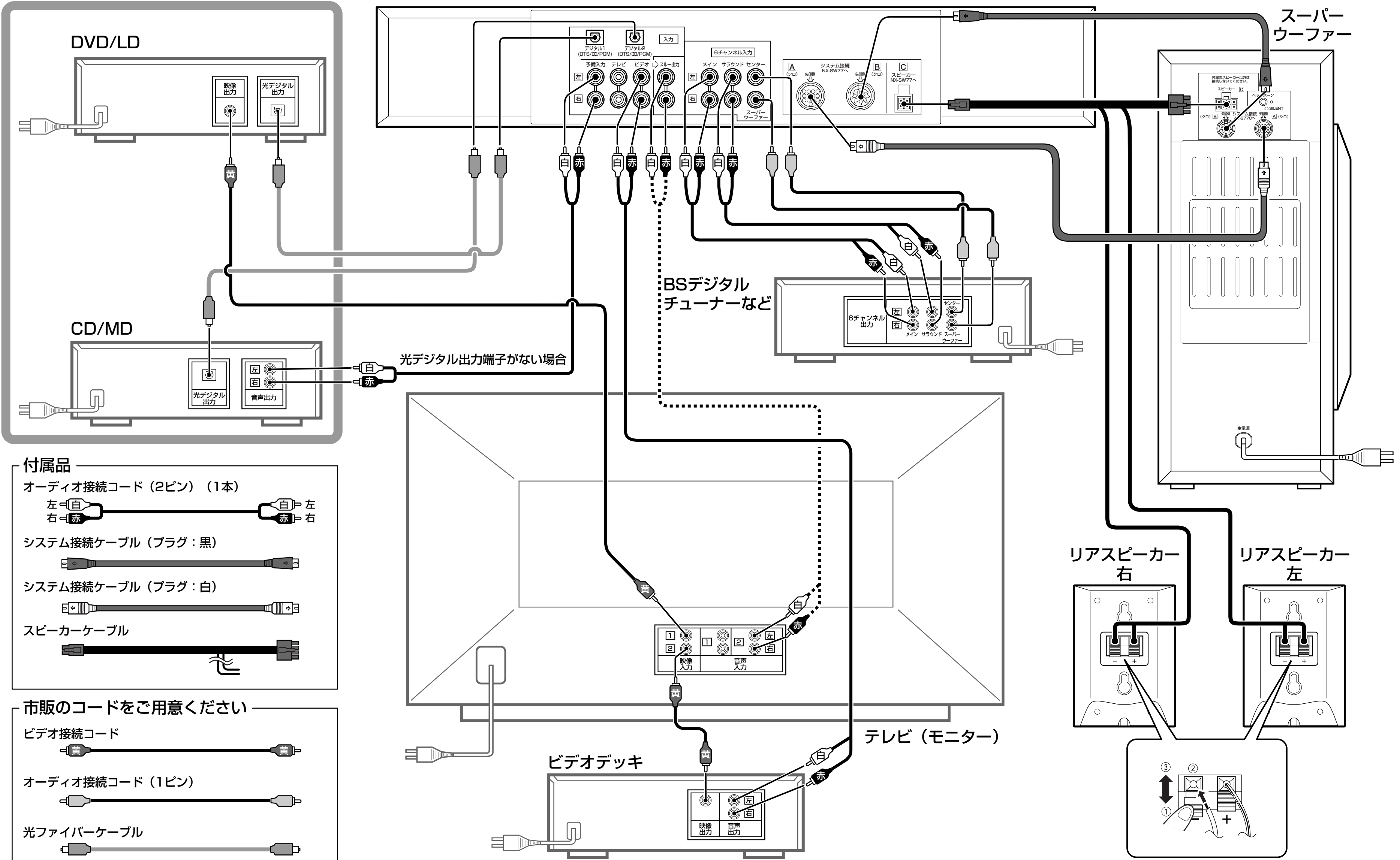
- 市販のコードをご用意ください**
- ビデオ接続コード
  - オーディオ接続コード（1ピン）
  - 光ファイバーケーブル



# AV-S77 簡易接続図

## 音声出力端子のないテレビ（モニター）とのつなぎかた

デジタル音声を楽しむとき



- 付属品**
- オーディオ接続コード（2ピン）（1本）  
左 ← 白 → 左  
右 ← 赤 → 右
  - システム接続ケーブル（プラグ：黒）
  - システム接続ケーブル（プラグ：白）
  - スピーカーケーブル

- 市販のコードをご用意ください**
- ビデオ接続コード
  - オーディオ接続コード（1ピン）
  - 光ファイバーケーブル